

出委員長 子爵 岡部 長 職 委員 子爵 松平 乘 長

第三回同大正五年二月二十四日 平山 成 信 同 男爵 關 義 臣

同會 男爵 三島 津 彥 同 有 松 英 義

○委員 出席政府委員 散會ヲ命ス 內務省參政官 藤澤 幾 之 輔

○委員 出席政府委員 散會ヲ命ス 內務省副參政官 鳥居 錦 次 郎

開會 午前十一時 內務省參政官 田 中 嘉 吉

○委員 長子爵岡部長職 開會ヲ宣告ス 內務省副參政官 田 中 嘉 吉

○委員 長子爵岡部長職 散會ヲ命ス 內務省參政官 大 淵 清 常

散會 午前十一時 內務省參政官 藤 野 巖 之 輔

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ 大 淵 清 常

國籍法中改正法律案 右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也 英 譯 同 會 議 員 吉

大正五年二月二十四日

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也 英 譯 同 會 議 員 吉

右特別委員長

子爵 岡部 長 職

貴族院議長公爵德川家達殿

(附記) 貴族院議事速記録第十五號百八十四頁參照

委員長 子爵 岡部 長 職印

副委員長 伯爵 寺島 誠 一 郎印

四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條中「北海道廳ノ官吏」ノ下ニ「及北海道地方費ノ有給吏員」ヲ加ヘ同條第四項ヲ左ノ如ク改ム

北海道廳ノ爲請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人ハ北海道會議員ノ被選舉權ヲ有セス

第八條中「其ノ職ヲ失フ」ノ下ニ「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除ク外」ヲ加フ

第十條中「第二次ノ通常會」ヲ「次ノ通常會」ニ改ム

附則

○ 第二條ノ規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

大正三年度北海道地方費決算ハ大正五年ノ通常會ニ報告スヘシ

市制中改正法律案

市制中左ノ通改正ス

第十一條第二項中「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル」ヲ「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル」ニ改ム

町村制中改正法律案

町村制中左ノ通改正ス

第九條第二項中「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル」ヲ「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル」ニ改ム

府縣制中改正法律案

府縣制中左ノ通改正ス

第三十七條第一項中「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者」ヲ「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者」ニ改ム

改ム

○ 委員長侯爵花山院親家 北海道會法中改正法律案ヲ問題ニ供ス

○ 委員侯爵花山院親家 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○ 政府委員藤澤幾之輔 現行法ハ明治三十四年ノ制定ニ係リ現時ノ狀勢ニ適セサルモノアルノミ

ナラス本年八月北海道會議員ノ選舉ヲ行フノ時期ナルヲ以テ本案ヲ提出セシ所以ナリ而シテ改正ノ要點ハ議員ノ任期ヲ四年ニ延長シ任期ヲ起算スヘキ時ニ關スル規定ヲ加ヘ又地方費決算ハ年度終了後第二次ノ通常道會ニ報告シタルヲ改メ府縣ニ於ケルト同シク次ノ通常會ニ報告スルコトトシ其ノ他選舉權及被選舉權ニ關スル規定ヲ改ムルニ在リ

○委員侯爵花山院親家 各條ニ互リ詳細ナル説明アラムコトヲ求ム

○政府委員藤澤幾之輔 第二條ニ於テ議員ノ任期ヲ四年ニ改ムルハ從來北海道ノ移住民ハ移動常ナカリシト北海道區制ハ區會議員ノ任期ヲ六年トシ三年毎ニ其ノ半數ヲ改選スルノ制ヲ採リシトニ由リ道會議員ノ任期ヲ三年ト爲シタルモ今日ニ於テハ短キニ失スルニ至レリ加之衆議院議員府縣會議員市町村會ノ議員ノ任期ハ悉四年ナリ依テ齊シク四年ノ制ヲ採ラムト欲ス第五條第二號ノ改正ハ民法施行法第二條及第三條ノ規定ノ結果ナリ又第三號及第四號ノ規定ハ刑法ノ改正ニ基ク改正ナリ第七條中北海道地方費ノ有給吏員ヲ加フルハ明治三十九年勅令第百九十四號ヲ以テ地方費ノ有給吏員ヲ置クコトトナリシニ依リ府縣有給吏員ニ對スルト同シク之ニ被選舉權ヲ與ヘサルノ趣意ニシテ同條第四項ノ北海道廳ノ爲請負ヲ爲ス者等ハ地方費ヲ以テ支辨スル事業ノ請負者等ノミナラス國費ヲ以テスル事業ノ請負者等ヲ含ム是レ二者ノ費用ハ相分チ難キ

ヲ以テナリ而シテ之カ改正ハ現行ノ市制町村制ニ於ケルト同一ノ趣旨ニ出ツ第八條ハ政府ノ立案ニ依レハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ直ニ被選舉權ヲ失ハシムルノ趣旨ナリシニ衆議院ニ於テハ刑ノ確定ニ至ラサレハ被選舉權ヲ失ハサルコトニ修正シタリ第十條ハ地方費ノ決算ニ於テ年度終了後次ノ通常會ニ報告セシムルモノニシテ府縣ニ於ケルト其ノ軌ヲ一ニセムトスルモノナリ附則第一項ノ次ノ總選舉トハ本年八月ニ執行スル總選舉ヲ謂フ

○委員男爵南岩倉具威 明治三十四年現行法制定ノ當時ト現時トハ北海道ノ狀況ニ於テ何程ノ變化アリシカ具體的ニ説明アラムコトヲ望ム

○政府委員俵孫一 先ツ人口ノ増進ニ付之ヲ見レハ明治三十四年ノ調査ニ依レハ人口約百萬ニ過キサリシカ大正三年ニハ百八十七萬ニ増加シタリ從テ各種ノ生産物ノ増加モ亦著シキモノアリ即明治三十八年ニハ生産總額五千五百四十五萬圓ナリシカ大正三年ニハ一億四千二百二十四萬圓ヲ算スルニ至レリ耕地ニ就テモ之ニ同シク明治三十八年ニハ僅ニ三十六萬三千町歩ノ開墾地アルニ過キサリシカ大正三年ニハ六十五萬三千町歩ニ擴張スルニ至レリ其ノ他鐵道ニ於テモ樞要ナル幹線ハ今ヤ略完成シ全道ニ互リ延長實ニ一千哩ニ達セムトス斯ノ如ク種種ノ統計ニ見ルモ進歩發達ノ迹著シク從テ往時トハ大ニ趣ヲ異ニスルニ至リ又住民ノ移動常ナキ狀態ハ既ニ去リ

テ住民ハ其ノ堵ニ安スルニ至レルヲ以テ府縣ニ於ケルト同様ニ道會議員ノ任期ヲ四年ニ改メム
トス而シテ三年ノ期間ハ議員ノ任期トシテハ短キニ失シ議員ヲシテ能ク議事ニ通達シテ審議セ
シメ得サルノ憾アリ是レ實ニ本案ノ骨子ナリ

○委員男爵南岩倉具威 移住ノ狀況及議員再選ノ割合ニ付數字の說明ヲ求ム

○政府委員俵孫一 既往十年ノ統計ニ依レハ年年約六萬ノ人口内地ヨリ來リ其ノ内歸去スル者約

一萬四五千ナルヲ以テ少クトモ三萬四五千ノ人口ハ土著スルニ至ル且又北海道ニ於テハ出生率

ハ死亡率ヲ超過スルコト千分ノ二十餘ナルカ爲ニ現在ノ人口ニ對シ此ノ率ヲ以テセハ歲歲約四

萬ノ増殖ヲ來スモノナリ故ニ此ノ自然増加ト移住ニ因ル増加トヲ加フルトキハ年年約七萬五

千乃至八萬許ノ人口ヲ増加ス尙道會議員改選ノ結果ニ依レハ再選者ノ數ハ概シテ約半數ニ達

ス

○委員長侯爵花山院親家 既ニ正午ニ近キタルヲ以テ散會セムコトヲ諮フ

異議ナシ

○委員長侯爵花山院親家 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十分

第二回 大正五年二月二十五日

出席委員

副委員長男爵 南岩倉具威 委員 伯爵 島津忠麿

大同 子爵 松平乘承 同 子爵 京極高義

出席政府委員 安立綱之助 同 田島竹之助

出席政府委員

内務省參政官 藤澤幾之輔

内務省地方局長 渡邊勝三郎

北海道廳長官 俵孫一

開會 午後一時三十七分

○副委員長男爵南岩倉具威 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○副委員長男爵南岩倉具威 散會ヲ命ス

散會 午後二時九分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

○ 北海道會法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

○ 大正五年二月二十五日開會

右特別委員副委員長

男爵 南岩 倉具 威

貴族院議長公爵德川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第十六號百九十五頁參照

市制中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十五日

右特別委員副委員長

男爵 南岩 倉具 威

貴族院議長公爵德川家達殿

町村制中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十五日

右特別委員副委員長

男爵 南岩 倉具 威

貴族院議長公爵德川家達殿

府縣制中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十五日

右特別委員副委員長

男爵 南岩 倉具 威

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 花山院 親家印

副委員長 男爵 南岩 倉具 威印

大正五年二月二十五日

委員 世稱 南谷 會 其 野田
委員 世稱 折山 野田 家田

大正五年二月二十五日

委員 南谷 會 其 野田
委員 世稱 折山 野田 家田

大正五年二月二十五日

委員 世稱 折山 野田 家田

大正五年二月二十五日

委員 世稱 折山 野田 家田

大正五年二月二十五日

委員 世稱 折山 野田 家田

委員 世稱 折山 野田 家田

私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十二日議長ノ指名ヲ以テ私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | | | |
|----|----|---|----|
| 子爵 | 稻垣 | 太 | 祥 |
| 男爵 | 山川 | 健 | 次郎 |
| 男爵 | 折田 | 彦 | 市 |
| 男爵 | 神田 | 乃 | 武 |
| 男爵 | 肝付 | 兼 | 行 |
| 男爵 | 伊澤 | 修 | 二 |
| 男爵 | 江原 | 素 | 六 |
| 男爵 | 石橋 | 謹 | 二 |
| 男爵 | 木本 | 源 | 吉 |

○大正委員長及副委員長選舉又關委員其ノ選定其ノ結果云々

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 子爵 稻垣 太祥
副委員長 江原 素六

會議

第一回 大正五年二月十九日

出席委員

委員長	子爵	稻垣 太祥	副委員長	江原 素六
委員	男爵	山川 健次郎	同	折田 彦市
同	男爵	神田 乃武	同	男爵 肝付 兼行
同	伊澤 修二	同	同	石橋 謹二

觀衆出席政府委員

○大正五年二月十九日 文部省普通學務局長 田所 美治

私立學校開會

午前十時四十分

○委員長子爵稻垣太祥 開會ヲ宣告ス

(參照)

私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校及專門學校

二 前號以外ノ私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

三 日本赤十字社、恩賜財團濟生會其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公益法人

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ幼稚園及學校ニ在リテハ校舍、寄宿舎、圖書館其

ノ他必要ナル附屬建物ノ敷地、運動場、實習用地及保育又ハ教授上直接ノ用途ニ供スルモノ

ニ限リ公益法人ニ在リテハ事務所ノ敷地其ノ他事業ノ執行上直接ノ用途ニ供スルモノニ限ル

第三條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公

課ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員江原素六 本案ノ規定ニ依リ私立學校及公益法人ノ用地ノ地租ヲ免除スル場合ニ於テハ其ノ額ハ何程ニ達スルノ見込ナリヤ

○政府委員今村次吉 私立學校及公益法人ノ用地免租ノ見込額ノ内譯左ノ如シ

- 專門學校 六千二百八十四圓
- 高等女學校 四千七百五十八圓
- 小學校 二千三百二十九圓
- 盲啞學校 六十八圓

一計 二萬五千六圓

日本赤十字社用地 三千八百八十八圓

財團濟生會用地 八圓

○委員男爵肝付兼行 第一條中但書ヲ削除セハ如何本員ハ寧之ヲ削除スルヲ以テ可ナリト思惟ス

○政府委員田所美治 本案ハ衆議院ヨリ提出シタルモノニシテ茲ニ有料借地トアルハ惟フニ地主

カ用地貸付ノ契約ヲ爲シ其ノ土地ノ借料ヲ受クルモノナレハ之ニ對シテ地租ヲ免除スルハ其ノ

當ヲ得ス之ニ反シテ用地ヲ無料ニテ提供スルモノニ付テハ無論免租ト爲スモノナリ

○委員男爵肝付兼行 大藏省ニ於テハ此ノ有料借地ノ取調ハ完全ニ爲シ得ルノ心算アリヤ

○政府委員今村次吉 有料借地ニ付テハ地租ヲ免除セサル方針ナリ而シテ有料地ノ取調ハ困難ナリト認ムルヲ以テ政府ニ在リテハ進テ本案ヲ提出スルノ勇氣ナカリシナリ

○委員折田彦市 所謂女學校ノ中ニハ高等女學校規程ニ依ラサルモノアリ斯カル學校ノ用地ヲ免租スルニハ如何ナル規定ニ依ラムトスルヤ

○政府委員田所美治 第一條第二號ニ依ラシムル考ナリ現今雜種ノ學校ハ其ノ數千二百四十餘アリ是等ハ一括シテ各種學校ト稱セラル此ノ中專門學校ニ類似ノモノ中學校ニ類似スルモノ及高等女學校ニ類似スルモノノ總計四十五校アリ而シテ此等ハ何レモ文部大臣ヨリ指定セラレタルモノナリ此ノ中高等女學校ニ類スル女學校ノ數二十アリ

○政府委員今村次吉 貴問ニ係ル私立學校等ノ用地ヲ免租スル方法ハ大藏大臣ニ於テ之ヲ指定スルコトトナリ居レリ

○委員男爵山川健次郎 衆議院ニ於テハ本案ノ第二條ノ規定中「直接ノ用途」ナル字句ヲ甚シク廣義ニ解釋スルモノノ如シ此ノ點ニ關スル政府委員ノ所見ヲ問フ

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- | | | |
|------|----|--------|
| 委員長 | 候補 | 木村誓太郎 |
| 副委員長 | 候補 | 福島文右衛門 |
| 委員長 | 候補 | 木村誓太郎 |
| 副委員長 | 候補 | 木内重四郎 |

會議

第一回 大正五年二月十九日

- | | | | | |
|-----|----|-------|------|-------|
| 委員長 | 候補 | 德川賴倫 | 副委員長 | 木内重四郎 |
| 委員 | 子爵 | 井上匡四郎 | 同 | 子爵 |
| 同 | 男爵 | 藤大路親春 | 同 | 木村誓太郎 |

大藏省副參政官

紫安新九郎

本開會 午前十時三十五分

○委員長侯爵德川賴倫 開會ヲ宣告ス

(參照)

銀行條例中改正法律案

銀行條例中左ノ通改正ス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マムトスル者ハ商號、資本金額及本店ノ所在地ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

銀行カ他ノ事業ヲ兼營シ又ハ支店ヲ設置セムトスルトキ亦前項ニ同シ

第二條ノ二 銀行カ前條第一項ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ支店ノ所在地ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

銀行ノ事業ヲ營ム會社ノ合併ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第八條ノ二 大藏大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ其他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

銀行カ法令、定款又ハ大藏大臣ノ命令ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ大

藏大臣ハ事業ノ停止若ハ役員ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ認可ヲ取消スロトヲ得

第九條 大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタルトキハ其營業主ヲ千圓以下ノ罰金

ニ處ス

第十條 左ノ場合ニ於テハ營業主ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第二條第二項又ハ第二條ノ二第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告若ハ公告中ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ

事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第八條ノ検査ヲ妨ケタルトキ

四 第八條ノ二ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第十條ノ二ノ前二條ノ罰則ハ營業主法人ナルトキハ其業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役其

他法人ノ代表者、外國會社ノ代表者ニ之ヲ適用シ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ之ヲ其法

定代理人ニ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

貯蓄銀行條例中改正法律案

貯蓄銀行條例中左ノ通改正ス

第七條ノ二ヲ削ル

第九條ノ二第二號中「又ハ第七條ノ二」ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正四年法律第二十三號附則第四項中「銀行ニ對シテハ第七條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ、」及

「第七條ノ二、第九條ノ二及」ヲ削リ「第十條」ヲ「第八條ノ二、第十條及第十條ノ二」ニ改ム

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第七條第一項ニ左ノ二號ヲ加ヘ同條第三項及第四項ヲ削ル

第七條信託ノ業務

八 他銀行ノ業務代理ニ關スルハ第八條ノ二及第九條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用ス

第八條ノ二中「手形」ヲ削リ又「」及但書ヲ削ル

第八條ノ三 第七條第二項第三號第四號第六號、同條第二項及前條ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ

第七條第一項第一號第二號及第八條ニ依ル貸付金總額ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條ノ二ヲ削ル

第二十一條ノ二 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ北海道拓殖銀行ニ對シ支店代理店ノ設置

ヲ命スルコトヲ得

第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 第八條ノ三ノ規定ニ違反シタルトキハ、第八條ノ二ノ規定ヲ適用スルハ、

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵德川賴倫 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三分

第二回 大正五年二月二十一日

出席委員

委員長 侯爵 德川 賴倫 副委員長 木内重四郎

委員 子爵 井上匡四郎 同 子爵 榎本武憲

同 男爵 藤大路親春 同 木村誓太郎

同 大藏書記官 川俊六郎

出席政府委員

大藏書記官 川俊六郎

大開會 午前十二時二十七分

○委員長侯爵德川賴倫 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵德川賴倫 散會ヲ命ス

散會 午後零時二十二分

第三回 大正五年二月二十三日

○委員長 出席委員

委員長 侯爵 德川 賴倫 副委員長 木内重四郎

委員 子爵 三井上匡四郎 同 子爵 榎本武憲

同 男爵 藤大路親春 同 木村誓太郎

出席委員 福島文右衛門

出席政府委員

大藏書記官

森 俊六郎

開會 午後二時三十五分

○委員長侯爵德川賴倫 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵德川賴倫 散會ヲ命ス

散會 午後三時十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

銀行條例中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十三日

右特別委員長

侯爵 德川 賴倫

同 貴族院議長公爵德川家達殿

貯蓄銀行條例中改正法律案

同 貴族院議長公爵德川家達殿

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十三日

右特別委員長

侯爵 德川 賴倫

同 貴族院議長公爵德川家達殿

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十三日

右特別委員長

侯爵 德川 賴倫

同 貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 德川 賴倫

副委員長 木内重四郎印

出席政府委員

開會 午後二時三十分

○委員長 櫻井 副委員長 木内重四郎

○委員 長谷川 川 藤 諭

○委員 長谷川 川 藤 諭

○大正五年二月二十五日 委員長 櫻井 副委員長 木内重四郎

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

大正五年二月二十五日 委員長 櫻井 副委員長 木内重四郎

大正五年二月二十五日 委員長 櫻井 副委員長 木内重四郎

大正五年二月二十五日 委員長 櫻井 副委員長 木内重四郎

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員

委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

出席委員 長谷川 川 藤 諭

商業會議所法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ商業會議所法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

出席委員

○大正五年二月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	松浦	厚
副委員長	男爵	郷	川誠之助

第一回 大正五年二月二十二日

會議

出席委員

委員長	伯爵	松浦	厚	副委員長男爵	郷川誠之助
委員	子爵	永井	尙敏	同	江原芳平
同		瀧川	辨三	同	同
出席國務大臣				農商務大臣	河野廣中

○大正出席政府委員

委員

農商務省商工局長

岡

實

商業會議所開會 午後一時四十五分

○委員長伯爵松浦厚 開會ヲ宣告ス

(参照)

商業會議所法中改正法律案

商業會議所法中左ノ通改正ス

第九條第一項中「主タル」ヲ削リ「取引所税」ヲ「取引所營業税」ニ、「鑛業税」ヲ「鑛産税」ニ改メ同

項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 賣藥營業税ヲ納ムル賣藥營業者

同條第二項中「納税ノ額」ヲ「地區内ニ於ケル納税ノ額」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

商業會議所ノ地區ノ内外ニ於テ營業所又ハ事務所ヲ有シ營業税又ハ鑛産税ヲ分別シテ納メサ

ル者ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ地區内ニ於ケル納税額ト看做

ス

第十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラ

レ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

家督相續ヲ爲シタル者ニ付テハ第九條第一項ノ規定ニ依ル議員ノ選舉權ニ關スル要件ニシテ被相續人ノ具備シタルモノハ之ヲ其ノ者ノ具備シタルモノト看做ス

第十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

商業會議所ノ地區内ニ主タル營業所又ハ事務所ヲ有セサル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

第二十四條 議員ノ任期ハ四箇年トス

第二十六條中「半數」ヲ削ル

第三十三條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ會頭ノ請求アルトキハ市町村ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商業會議所ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付ス

ヘシ

第四十八條中「市參事會、町村長」ヲ削ル

附則

本法ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行ノ際現ニ議員タル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第三十三條ノ規定ハ本法施行ノ日ノ屬スル會計年度ニ於テ賦課シタル經費ヨリ之ヲ適用ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵松浦厚 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十六分

第二回 大正五年二月二十六日

出席委員

- | | | | | | |
|-----|----|------|------|----|------|
| 委員長 | 伯爵 | 松浦厚 | 副委員長 | 伯爵 | 鄉誠之助 |
| 委員 | 子爵 | 青山幸宜 | 同 | 子爵 | 永井尙敏 |
| 同 | 男爵 | 二條正麿 | 同 | 同 | 江原芳平 |

同 瀧川 辨三

出席委員外議員

田中源太郎

出席國務大臣

農商務大臣

河野 廣中

出席政府委員

農商務省商工局長

岡

實

○委員長伯爵松浦厚 開會ヲ宣告ス

○委員男爵郷誠之助 商業會議所法第三十條ニ依レハ商業會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル

者ニ於テ之ヲ負擔スルモノナリサレハ之ヲ一見スレハ經費ノ負擔ヲ命スルニ付テハ法律上無制限ナルカ如シ實際上ハ如何ナル徵收方法ニ依ルカ又ハ營業稅及鑛業稅ニ在リテハ其ノ百分ノ二十

○政府委員岡實 商業會議所ノ經費ノ割當ニ付テハ商業會議所法第三十五條第二項ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス又農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ經

費ノ豫算及賦課徵收方法ノ變更ヲ命シ其ノ他適當ノ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スヲ得而シテ賦課ノ率ニ付テハ一監督官廳ニテ審查シ宜シキヲ得ザルトキハ認可セス又認可ヲ與フルノ標準ヲ豫定スルノ要アルヲ以テ農商務大臣ハ商業會議所法施行規則ニテ之ヲ示セリ即其ノ第十四條ニ「納稅額ヲ標準トシテ經費ヲ賦課スル場合ニ於テハ營業稅及鑛業稅ニ在リテハ其ノ百分ノ二十五ヲ超ユルコトヲ得ス」ト規定セリ然レトモ此ノ最高率ヲ以テ賦課セシ實例ハ之ナク最高額ノモノト雖百分ノ十一ニ過キス而シテ大多數ノモノハ百分ノ五位ナリ

○委員男爵郷誠之助 商業會議所法第三十五條及第四十四條ハ何レモ賦課徵收方法ニ付テノミ規定スルニ過キス賦課ノ額ニ關シテハ何等法定ノ制限ナシ然ルニ之ニ反シ府縣稅市町村稅等ニハ明ニ之カ制限アリ商業會議所法ニ其ノ制限ヲ定メサルハ法ノ不備ニアラスヤ

○政府委員岡實 貴說ノ如ク北海道府縣市町村等ノ自治團體ハ明治四十一年法律第三十七號ノ規定ニ依リテ地方稅ノ賦課ニ關シテ制限ヲ受ク而シテ商業會議所ニ對シテ斯ノ如キ法定ノ制限ナキハ一面ヨリ見レハ今後修正ヲ加フヘキ餘地アルカ如キモ他面ヨリ見レハ其ノ理由ナキニアラス凡公共團體ニ在リテハ一定ノ限度迄ハ上級官廳ノ許可ヲ得スシテ當然租稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得是レ全ク其ノ自治權ノ働ナリ唯此等ノ制限以上ノ賦課ヲ爲サムトスルトキニ於テ內務大

藏兩大臣ノ許可ヲ要ス商業會議所ニ在リテハ之ニ反シテ假令省令ノ定ムル制限以下ノ賦課ト雖
 一農商務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要スルヲ以テ一層嚴重ナル監督ニ服スルモノト見ルコトヲ得
 ○委員男爵郷誠之助ハ商業會議所ニ經費ノ強制徵收方法ヲ許スハ本案ノ要點ナルカ如シ然ラハ農
 會重要物産同業組合等ニ於テモ同様ノ必要ヲ見ルニ至ラサルヤ此ノ點ニ關シテハ曩ニ議場ニ於
 テ江木千之君ノ質問アリ同君ノ舉示セラレタル組合ノ外ニモ尙種種ノ組合モアレハ政府ノ明確
 ナル意見ヲ述ヘラレタシ

○政府委員岡實ハ商業會議所ハ産業ノ發達ヲ計ル機關トシテ法律ニ依リテ規定セラレ此ノ點ハ農
 會等ト同様ナリ然レトモ仔細ニ之ヲ檢スルトキハ兩者ハ異レル性質ヲ有ス商業會議所ハ市町村
 其ノ他ノ公共團體ノ構成ヲ其ノ儘ニ移シタルモノニシテ母法タル佛國法及獨逸法ニ見ルモ公課
 ト同一ノ方法ニ依リテ其ノ經費ヲ徵收ス故ニ其ノ性質ハ商工業者ヲ以テ組織スル一種ノ公共團
 體ニシテ全然公法人ナリ農會等ハ之ニ反シテ私法人ナリ次ニ商業會議所ノ事務權限トシテ法律
 ノ規定スルモノハ箇條アリ商業會議所ハ此ノ規定ニ從ヒ公法人トシテ行政官廳ノ爲スヘキ事務
 ヲモ行フ其ノ目的ハ明白ニ具體的ナリ之ニ反シテ農會ノ如キハ農事ノ改良發達ヲ計ル目的ト
 スルモノニシテ其ノ範圍ニ付概括的ノ規定アルノミナリ又商業會議所ノ關係者ト見ルヘキ者ハ

○商工業者中ノ一部タル有資格者ノミナリ此ノ點ハ市町村ニ於テ公民ヲ以テ自治機關トスルト全
 然同様ナリ然ルニ農會ノ如キハ其ノ區域内ノ農民ハ其ノ身分資格ノ如何ヲ問ハス悉會員トス其
 ○ノ他議決機關ノ構成ニモ差異アリ商業會議所法ハ選舉ノ方法等ニ付テ明白ナル規定ヲ爲シ又過
 怠金ニ付テハ強制徵收ヲ認ム最著シキ異點ハ農會等ハ民事上ノ手續ニ依リテ徵收スルモ商業會
 ○議所ハ全然過怠金ノ強制徵收ノ方法ニ依ル以上ノ諸點ヲ綜合スルトキハ商業會議所ト農會等ト
 ハ其ノ性質ヲ異ニスルモノナレハ之ニ對シ經費強制徵收ノ制ヲ認ムルモ農會等カ經費強制徵收
 ノ權ヲ得ルノ理由ナシ
 ○委員男爵郷誠之助 公私法人ノ區別ニ付テ政府ハ如何ナル見解ヲ探ララルヤ大正二年ニ於ケル
 大審院ノ判決例ニ依レハ公法人ハ第一ニ國家行政組織ノ一部ヲ爲シ國家行政ノ一部ヲ行フヲ以
 ○テ職務トスルコト第二ニ右ノ行政ヲ行フニ當リテハ權力ヲ行使スルコトヲ以テ其ノ特色トスル
 ○カ如シ
 ○政府委員岡實ハ現行法中公法人私法人ヲ區別スル標準ニ付テハ何等明文ナキヲ以テ全然行政官
 ○廳及司法裁判所ノ認定スル所ニ依ル而シテ行政廳ノ見ル所ハ貴説ノ如シ從來公法人ニ付テハ其
 ○ノ目的構成等ニ付詳細ナル規定ヲ爲シ其ノ市町村等ト類似スルヲ以テ私法人ト區別スルノ標準

ト爲シタリ兩者ノ中間ニ位スル團體ニ付テハ行政官廳及司法裁判所ノ確定判例ノナキモノモアリ

○委員男爵郷誠之助 現ニ經費ノ強制徴收ヲ許サルル土工組合、水利組合、耕地整理組合及畜産組合等ノ性質ニ付テハ政府ハ如何ナル見解ヲ採ララルヤ

○政府委員岡實 土工組合、耕地整理組合等ハ公法人ナリト考フ畜産組合ニ付テハ疑アリ今明言スル能ハス

○委員男爵郷誠之助 商業會議所ニ經費ノ強制徴收ヲ許ス主ナル理由ハ其ノ公法人タルノ性質ヲ有スルニ歸スルモノノ如シ然ラハ農會ハ私法人ナルカ故ニ經費ノ強制徴收ヲ許ササルヤ又或特殊ノ理由ニ依リテ之ヲ許スコトアリヤ

○國務大臣河野廣中 農會ニ對シテハ商業會議所ノ經費ノ強制徴收法ニ準シテ之ヲ許スコトナシ特殊ノ事情ヲ以テ許スコトアリヤ否ハ問題ヲ異ニス目下ノ方針トシテハ之ヲ許スコトナシ

○委員男爵郷誠之助 果シテ然ラハ商業會議所ニ經費ノ強制徴收ヲ許スト同一理由ニ依リ之ヲ許ササルコトヲ國務大臣ハ言明セラルルヤ

○國務大臣河野廣中 然リ

○委員男爵郷誠之助 衆議院ニ於ケル町田參政官ノ言ニ依レハ農會ニモ經費ノ強制徴收ヲ許スカ如キ口吻アリ農商務大臣ノ言明ト比シ何レヲ正シト解スヘキヤ

○國務大臣河野廣中 公法人タルカ故ニ經費ノ強制徴收ヲ許スカ本旨ナリ農會ニ付テ町田參政官カ然ク答ヘシカ否カハ記憶セサルモ畢竟一種特別ノ事情カ存在シ得ラルヤ否ノ事實問題ヲ擧ケシナルヘシ然ラハ則其ノ事情ニ依リテ考ヘサルヘカラス要スルニ主旨ハ前述セシ如シ而シテ本件ニ關シテ農商務省ハ官吏ヲ各地ニ派シテ取調ヲ爲シタリ其ノ結果トシテ本案ヲ提出シタルナリ唯農會ハ其ノ資格ニ於テ經費ノ強制徴收ヲ爲スニ關クル所アルヲ明言ス

○委員男爵郷誠之助 目下提出中ノ農會法中改正法律案ニハ經費ノ強制徴收ニ關スル規定アリ政府ハ之ニ同意ナリヤ

○國務大臣河野廣中 政府ハ之ニ同意セス

○委員男爵郷誠之助 全國ノ商業會議所中ニハ活動微弱ニシテ法定ノ目的ヲ達シ能ハサルモノ多シ然ルニ政府ハ從來之ニ對シテ緩漫ノ處置ヲ採ラレシハ如何

○政府委員岡實 商業會議所ノ不振ナルモノアルハ政府モ之ヲ認ム其ノ振興ノ方法ハ十分ニ攷究シタリ然レトモ凡活動ヲ開始スルニ際シテハ之ニ伴ヒテ必要ナル費用ハ新ニ計上セサルヘカラ

ス明治四十二年以來商業會議所ハ從來徴收シタリシ經費ノ額スラヲモ徴收スル能ハス此ノ上經費ノ増加ヲ議定スルモ事實上到底實行スルコト困難ナリ斯カル現状ニ在リテハ主務官廳ハ如何トモスル能ハス又此ノ狀態ニシテ三四年モ續カハ制度上失態ヲ來サムコトヲ恐ル故ニ之ニ經費ノ強制徴收ヲ許シ更ニ指導鞭撻スルノ外ナシト信ス

○委員男爵郷誠之助 政府ヨリ配付セラレシ參考書ニ依レハ全國ノ商業會議所中ニハ其ノ經費トシテ徴收スル金額ノ千圓以下ノモノ五、二千圓以下ノモノ十五アリ假ニ最少額ヲ二千圓トスルモ極メテ僅少ニシテ其ノ經費ヲ支辨スルニ足ラス殊ニ時局後大ナル職務ヲ執ラムトスルニハ全然不可能ナリサレハ更ニ經費ヲ増徴スルノ要アリ此ノ點ニ關シテ政府ハ如何ニ爲サルルヤ又指導誘掖ノ方法如何

○政府委員岡實 經費ニ關シテハ目下商業會議所ニハ會頭副會頭等ノ如キ主腦者ノミアリテ手足ヲ闕如ス即機關ト稱スヘキモノ殆之ナシ故ニ經費ヲ要スルコト少キ所ニ在リテハ家ヲ借り書記ヲ出勤セシメ書記ハ雜務ヲ處理スルノミ今後ハ第一ニ會頭副會頭ニ其ノ人ヲ得ルコト肝要ナリ又機關トシテハ書記長ノ下ニ書記ヲ置キテ初メテ活動ノ手足ヲ得ル譯ナリ先般各商業會議所ノ會頭ヲ農商務省ニ集メ數十箇條ヲ審議確定セリ此等ヲ一一實行セシムルハ至難ノ事ナルモ事業

ノ遂行ヲ爲スニハ經費ヲ強制徴收スルコト肝要ナリ若會頭ニシテ相當ノ經費ヲ増加スルコトヲ躊躇スルモノアラハ農商務大臣ハ法ノ定ムル所ニ依リ豫算ヲ認可セス以テ十分ニ監督セムトス

○委員男爵郷誠之助 本員ノ見ル所ニ依レハ現在商業會議所ハ半身不隨ノ如キモノアルノミナラス全然死セルカ如キモノモアリ又土地ノ狀況ニ依レハ之ヲ設置スルノ要ナキモノモアリ政府ハ相當誘掖シテ之ヲ活動セシムルコトヲ得ルノ考ナルヤ

(附記) 以下本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵松浦厚 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後零時二十三分

第三回 大正五年二月二十七日

- | | | | | | | |
|--------|----|----|----|------|----|------|
| 委員長 | 伯爵 | 松浦 | 厚 | 副委員長 | 男爵 | 郷誠之助 |
| 委員 | 子爵 | 青山 | 幸宜 | 男爵 | 二條 | 正鷹 |
| 同 | 江原 | 芳平 | 同 | 瀧川 | 辨三 | |
| 出席國務大臣 | | | | | | |

出席政府委員

農商務大臣 河野廣中

農商務省商工局長 岡

開會 午後一時十二分

○委員長伯爵松浦厚 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵松浦厚 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後一時二十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

商業會議所法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

○大正五年二月二十七日

委員長 伯爵松浦厚

貴族院議長公爵徳川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第十八號二百三十一頁參照

委員長 伯爵 松浦厚

副委員長 男爵 郷 誠之助

出頭政府委員
 開會 午後二時十二分
 ○委員長伯原長浦厚 開會 宣言
 ○委員長伯原長浦厚 報告 宣言
 ○委員長伯原長浦厚 報告 宣言
 午後二時三十分
 ○委員長伯原長浦厚 報告 宣言
 商業會議所法中改正法律案
 右別冊ノ議修正ニ付テ及報告書也
 大正五年二月二十七日
 (附5) 貴州湖蘇公債附屬川案整理
 副委員長 長瀬 謙
 委員長 伯原 厚
 委員 長瀬 謙
 委員 伯原 厚

齒科醫師法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ齒科醫師法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | | |
|----|-----|----|
| 伯爵 | 松平川 | 賴壽 |
| 子爵 | 今城 | 定政 |
| 男爵 | 高木 | 兼寬 |
| 男爵 | 大澤 | 謙二 |
| 男爵 | 安藤 | 直雄 |
| 男爵 | 木場 | 貞長 |
| 橋本 | 辰二 | 郎 |
| 由雄 | 元 | 太郎 |
| 網藏 | 平 | 輔 |

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正五年二月十日委員及副委員及出席委員並其委員長伯爵 松平 賴壽
副委員長 男爵 高木 兼寬

會議

第一回 大正五年二月十七日

出席委員

委員長	伯爵 松平 賴壽	副委員長	男爵 高木 兼寬
委員	子爵 今城 定政	同	男爵 大澤 謙二
同	男爵 安藤 直雄	同	木場 貞長
同	橋本 辰二郎	同	網藏 平輔

出席政府委員

內務省衛生局長	伯爵 中平川 謙望
文部省參政官	文部省專門學務局長 松浦 鎮次郎

○大正五年二月十五日委員及副委員及出席委員並其委員長伯爵 松平 賴壽
副委員長 男爵 高木 兼寬
委員 子爵 今城 定政 男爵 大澤 謙二 男爵 安藤 直雄 木場 貞長 橋本 辰二郎 網藏 平輔
出席政府委員 內務省衛生局長 伯爵 中平川 謙望 文部省參政官 文部省專門學務局長 松浦 鎮次郎

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

(參照)

齒科醫師法中改正法律案

齒科醫師法中左ノ通改正ス

第一條 第一號中「齒科醫學學校」ヲ「齒科醫學專門學校」ニ改ム

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

齒科學ノ課程ヲ設クル醫學專門學校以上ノ學校ニ於テ一年以上齒科學ヲ專攻シタル證明ヲ有セタル醫師ニシテ齒科醫業中技工ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者又ハ齒科專門ヲ標榜シタル者亦前項ニ同シ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫業ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十一條第二項ノ規定ヲ適用セス

○委(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

散會 午後零時三分

第二回 大正五年二月二十一日

本出席委員

委員長 伯爵 松平 賴壽

副委員長 男爵 高木 兼寬

委員 子爵 今城 定政

同 委員 男爵 大澤 謙二

同 男爵 安藤 直雄

同 男爵 木場 淵貞 長春衣

同 男爵 由雄 元太郎

同 男爵 中川 望

出席政府委員

內務省衛生局長

中川 望

齒科醫師法中改正法律案

齒科醫師法中改正法律案

文部省參政官

大津 淳一郎

齒科醫師法中改正法律案

文部省專門學務局長

松浦 鎮次郎

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

開會 午前十時三十六分

○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

散會 午後零時十五分

第三回 大正五年二月二十三日

出席委員

委員長 伯爵 松平 賴壽

副委員長 男爵 高木 兼寬

委員 子爵 今城 定政

同 委員 男爵 大澤 謙二

同 男爵 安藤 直雄

同 男爵 木場 貞長

同 男爵 橋本 辰三郎

同 男爵 由雄 元太郎

出席政府委員

法制局長官

高橋 作衛

內務省衛生局長

中川 望

文部省專門學務局長

松浦 鎮次郎

出席主務官

開會 午前十時三十六分

內務技師

野田 忠廣

開會 午後二時五十六分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

散會 午後五時十一分

第四回 大正五年二月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 松平 賴壽 委員 子爵 今城 元定 政

同 伯爵 大澤 元謙 二 同 男爵 安藤 直雄

同 同 木場 貞長 同 橋本 辰二 郎

同 同 由雄 元太郎 同 網藏 平輔

出席政府委員

第三回 大正五年二月二十三日

續會 午後五時十五分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

文部省專門學務局長

松浦 鎮次 郎

內務省衛生局長

中川 望

文部省參政官

大津 淳一 郎

開會 午後一時二十分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

○委員大澤謙二 前會提出セシ自己ノ修正案ニ付説明シ且普通醫師ト齒科醫師トノ業務ニ付辯明

セリ 大正五年二月二十五日

○委員長伯爵松平賴壽 先ツ修正案ニ付提出者ノ意見ヲ聞キタル後採否ヲ決スヘシトナシ修正意見提出者木場貞長君ニ説明ヲ促セリ

○委員木場貞長 本員ノ提出シタル案ハ原案ト其ノ實質ニ於テ同一ナルモ唯原案ニテハ爭ヲ生シ

タル場合ニ裁判官其ノ判定ニ苦シムヘキヲ以テ技術ニ屬スル部ハ之ヲ列記的ニ指摘シタルナリ

○委員又內務大臣ノ許可ヲ受テヘシトナシタル點ハ內務省ニ於テ標準ヲ定メテ細則ヲ設ケラレナハ不都合ナカルヘシト信ス

○委員橋本辰二郎 本員ハ修正意見三箇中共通ノ點ヲ採リ以テ一致シタル案ヲ得ルコトヲ希望ス

ルモノニシテ大澤案ニ木場案ノ技術ニ屬スル部分ノ一部ヲ加ヘタキ旨ヲ大澤、木場兩委員ニ意

○委員見ヲ求ム 木場案ニ對シテ大澤案ニ對シテ

○委員木場貞長 敢テ自案ヲ主張スルニ非サルモ讓歩ノ餘地ナシ

○委員大澤謙二 高木男爵ノ提案トハ一致セシメ得ラレムモ木場案トハ到底一致スル見込ナシ

○委員長伯爵松平賴壽 木場案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵松平賴壽 本第十一條ヲ除キ原案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵松平賴壽 本案ハ第十一條ヲ修正シ其ノ他原案ヲ可決シタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會ニ午後二時二十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シニ然レ同ノ案ハ

齒科醫師法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十五日

委員大澤謙二 前會提出シテ自ラハ第五案ニ付第四ノ且右特別委員長

委員伯爵松平賴壽 開會ニ宣言ス

開會 貴族院議長公爵徳川家達殿

伯爵 松平 賴壽

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第十六號二百一頁參照

委員長 伯爵 松平 賴壽

副委員長 男爵 高木 兼 寛印

○大正五年二月二十三日委員長及副委員ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 松平直之

副委員長 岡田良平

會議

第一回 大正五年二月二十六日

出席委員

委員長 伯爵 松平直之 副委員長 岡田良平

委員 子爵 東坊城徳長 同 子爵 西大路吉光

同 男爵 北大路實信 同 男爵 本田親濟

同 男爵 楠本正敏 同 堀内半三郎

出席政府委員

○大正五年二月二十五日委員、附録、以テ出席スル内務省參事官 山田準次郎

委員數

文部省宗敎局長 柴田駒三郎

農商務省山林局長 岡本英太郎

岡本英太郎

開會 午前十一時四十分

○委員長伯爵松平直之 開會ヲ宣告ス

(參照)

社寺上下戻ニ關スル法律案

第一條 社寺境内地ニシテ社寺土地處分ニ依リ現ニ國有ニ屬スル土地林野ハ其ノ社寺ニ下戻ス

第二條 本法ニ依ル下戻ノ申請ハ大正六年七月三十一日迄ニ主務大臣ニ差出スヘシ

第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ其ノ指令ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ行政裁

判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 第一條ニ依リ下戻ヲ受ケタル者ハ其ノ下戻ニ依リ所有權ヲ取得ス

前項ニ依リ所有權ヲ取得シタル者ハ其ノ土地林野及立木竹ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義

務ヲ承繼ス

第五條 本法ニ依リ下戻ヲ受ケタル土地林野及其ノ立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレ

ハ抵當權、質權ノ設定若ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 本法施行前行政處分又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル者ト雖本法ニ依リ下戻ノ申請ヲ爲ス
コトヲ妨ケス

附則

本法ハ大正五年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員伯爵松平直之 本案ニ付政府委員ノ意見ヲ聞ス

○政府委員岡本英太郎 本案ハ農商務省文部省及内務省ニ關係スル事項ナリ而シテ土地林ヲ管理

スルモノハ農商務省ナリ本案ハ是迄數回衆議院ヨリ貴族院ニ提出セラレ又本案ト同様ノ趣旨ヲ

有スル請願ハ貴族院ニモ數次呈出セラレタレトモ政府ニ於テハ絶對的ニ之ニ反對セリ政府カ本

案ニ反對スルハ舊社寺領ノ性質ヨリ考フレハ之ヲ下戻スヘキモノニ非サルコトヲ信スルニ依ル

抑舊社寺領ハ舊諸侯領ト同シク其ノ性質私有的關係ニ非スシテ公有的關係ナリ曩ニ本問題ノ生

スルヤ政府ハ社寺領カ公有的關係ナルカ私有的關係ナルカヲ攷究シテ其ノ公有的關係ナルヲ認

メ更ニ之カ當否ヲ明確ナラシムル爲東京帝國大學文科大學教授三上文學博士ニ之カ調査ヲ依託

セシニ博士ノ研究セシ結果ハ農商務省ノ見解ト全ク同一ニ歸シ公有的關係ナルコトヲ明ニセリ

政府ハ又地租改正又ハ社寺上地下處分ニ依リ社寺ノ所有ニ屬スル土地ニシテ不當ニ上地下ヲ命セラ

レタルモノ之ヲ換言スレハ斯カル不當處分ヲ受ケ國有トナリタル土地ニ付テハ國有土地森林原

野下戻法ヲ制定シテ之カ下戻ヲ爲シタリ明治三十二年法律第九十九號是ナリ斯ク下戻申請期限

ヲ定メ以テ事件ヲ終了セシメ既ニ一段落ヲ告ケタリ故ニ今日ニ於テハ性質上ヨリ謂フモ手續上

ヨリ論スルモ再考ノ餘地ナシ是レ本案ニ絶對ニ反對スル所以ナリ而シテ若今日社寺上地下戻ヲ

許可セムカ他ニモ同様ノ申請ヲ爲スモノ少カラサルヘク到底實際ナカルヘシ又曩日比叡山ノ上

地下戻ノ訴訟ニ於テ行政裁判所ハ原告ノ申立有理ナリトシテ下戻ヲ爲スヘキノ判決ヲ下シ高野

山ヨリ提起シタル下戻訴訟ニ付テハ原告ノ敗訴ニ歸セシメタリサレハ世間往往ニシテ行政裁判

所ノ判決ヲ以テ不公平ナリト爲ス者アルカ如シト雖比叡山ノ訴訟事件ニ在リテハ元ノ寄附者カ

私有關係ニテ寄附行爲ヲ爲シタルコトヲ發見シタレハ下戻スルコトヲ正當ト認メタルモ高野山

ノ事件ニ在リテハ土地ハ公有關係ニテ知行トナリタルモノナレハ下戻スヘキモノニアラス斯ク

其ノ判決ヲ異ニスルモ何等不公平ト謂フコトヲ得ス之ハ具體的ニ一例ヲ述ヘタルニ過キサル

モ當局者ハ一定ノ方針ヲ以テ本件ニ關スル事件ヲ處理シツツアルモノナルコトヲ表明スルモノ

ナリ

○委員岡田良平 社寺上地下戻ノ問題ハ先年來ノ懸案ナリ即衆議院ニテハ毎年法律案ヲ提出シ又

利害關係者ハ猛烈ナル運動ヲ爲シ莫大ノ費用ヲ消費シツツアルノ現状ナリサレハ政府ハ本問題ヲ如何ニ解スルカ若絶對ニ之ニ反對スルノ意ヲ有セハ如何ナル手段ヲ執ルモ到底徒勞ニ歸スヘキコトヲ利害關係者即寺社ノ當務者ニ悟了セシムルカ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ執ラサルヘカラスト信ス政府委員ノ意見如何

○政府委員岡本英太郎 政府ニ於テモ利害關係者カ年年大仕掛ノ運動ヲ爲シ無益ノ費用ヲ徒費スルヲ遺憾トシ社寺保管林規則ニ依ル社寺ノ得ヘキ歩合ヲ多クセムコトヲ社寺側ニ話シタルコトアリシモ意見一致セサリキ

○委員岡田良平 寺院側ノ運動員タル僧侶中ニハ所謂硬派軟派ノ二ニ分ルルモノノ如シ而シテ硬派ニ屬スル僧侶ハ明治維新當時ノ癡佛毀釋太政官ノ上地令ニ對シ痛ク反感ヲ有シ上地ノ下戻ハ自己ノ權利ニ屬スルモノヲ恢復スルニ過キスト主張スルカ如シサレト僧侶ハ比較的理解力アルモノナレハ主務省ヨリ適當ニ説諭セラレナハ解決ヲ見ルヘシト信ス政府ハ何故ニ今日迄之カ手段ヲ執ラサリシカ

○政府委員柴田駒三郎 社寺保管林規則ヲ改正シ以テ寺院ノ利益ヲ多カラシムル様取計ハムト欲シ農商務省當局者ト協議シタルコトアルモ未其ノ成案ヲ得サル次第ナリ

○委員岡田良平 如何ニ社寺保管林規則ノ歩合ヲ改ムルモ寺院ハ本來自己所有ノ山林ナリト信スルカ故ニ之ニ應セサルヘシ依テ他ニ適當ノ方法ヲ攷究セラレタシ

○委員伯爵松平直之 大隈總理大臣ハ本案ノ成立ヲ運動スル者ニ對シテ本案ニ賛成スル旨ヲ表明シテ之ヲ紹介スル爲名刺ヲ渡サレシヤニ聞ク果シテ事實ナリヤ

○政府委員岡本英太郎 運動委員中ニハ斯ノ如ク聲言スル者アル由ナルモ本官等ハ之ヲ信セス
○委員長伯爵松平直之 散會ヲ命ス

散會 午後零時二十分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 伯爵 松平直之印
副委員長 岡田良平印

利権關係者ハ其利益ヲ保護シテ其利益ヲ享受シテ之ヲ如何ニ利用スルカ若シテ之ニ反對スルハ如何ナル手段ヲ執ルモ到底徒勞ニ終スルキコトヲ利害關係者即チ政府ノ職務者ニ懸クモシテ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ執ラサルベシトス

○政府委員岡本英太郎 政府ニ於テモ利害關係者カ爾委員其等ノ運動ヲ阻シ田ノ委員ノ申明ハ如何ニ解決スルカ若シテ之ニ反對スルハ如何ナル手段ヲ執ルモ到底徒勞ニ終スルキコトヲ利害關係者即チ政府ノ職務者ニ懸クモシテ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ執ラサルベシトス

○委員岡田英平 政府ニ於テモ利害關係者カ爾委員其等ノ運動ヲ阻シ田ノ委員ノ申明ハ如何ニ解決スルカ若シテ之ニ反對スルハ如何ナル手段ヲ執ルモ到底徒勞ニ終スルキコトヲ利害關係者即チ政府ノ職務者ニ懸クモシテ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ執ラサルベシトス

○委員岡田英平 政府ニ於テモ利害關係者カ爾委員其等ノ運動ヲ阻シ田ノ委員ノ申明ハ如何ニ解決スルカ若シテ之ニ反對スルハ如何ナル手段ヲ執ルモ到底徒勞ニ終スルキコトヲ利害關係者即チ政府ノ職務者ニ懸クモシテ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ執ラサルベシトス

○委員岡田英平 政府ニ於テモ利害關係者カ爾委員其等ノ運動ヲ阻シ田ノ委員ノ申明ハ如何ニ解決スルカ若シテ之ニ反對スルハ如何ナル手段ヲ執ルモ到底徒勞ニ終スルキコトヲ利害關係者即チ政府ノ職務者ニ懸クモシテ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ執ラサルベシトス

軍人恩給法中改正法律案特別委員會

元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正五年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ軍人恩給法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出選委員	大正五年二月十日	侯爵	細川	護立
委員	大正五年二月十日	子爵	京極	高德
委員	大正五年二月十日	子爵	倉富	勇三郎
委員	大正五年二月十日	男爵	久保田	大讓
委員	大正五年二月十日	男爵	原口	兼濟
委員	大正五年二月十日	男爵	村上	敬次郎
委員	大正五年二月十日	男爵	山内	長人
委員	大正五年二月十日	男爵	宮原	二郎

(附記) 元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案ハ大正五年二月二十一日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ軍

人恩給法中改正法律案特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 侯爵 細川 護立
副委員長 男爵 村上 敬次郎

會議

第一回 大正五年二月十九日

出席委員

○大正五年委員長 侯爵 細川 護立
副委員長 男爵 村上 敬次郎
委員 子爵 京 極 高德 同 倉富 勇三郎
男爵 久保 田 則直 同 原 口 兼 濟
男爵 山 内 長 人 同 宮 原 二 郎
軍人恩給法中改正法律案特別委員會

法制局長官 高橋 作衛

出席主務官 陸軍省副參政官 三浦 得一郎

法制局參事官 黒 崎 定三

陸軍歩兵少佐 安藤 紀三郎

開會 午前十時十九分

○委員長侯爵細川護立 開會ヲ宣告ス

(參照) 一 軍人恩給法中改正法律案

第十條第一項中「軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現」ヲ「第六條ノ規

定ニ依ル」ニ、同項第一號中「戰鬪ノ爲メ」ヲ「戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム

第十四條第一號中「戰鬪ノ爲メ」ヲ「戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因リ」ニ改ム

第十五條中「前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ」ヲ「現役ヲ離レ」ニ改ム

軍人恩給法中改正法律案外一件特別委員會

第十八條第七號中「及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒」ヲ削ル
同條ニ左ノ一號ヲ加フ

三八 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シ若クハ屯田兵村監視
又ハ屯田兵部隊附トナリ軍隊ノ常務ニ服シタルトキハ其日數

第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 軍戰死シ又ハ戰鬪若クハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痕ノ爲メ死歿シタルトキ

第二十七條ノ二 第十條、第十四條及前條ノ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痕ニ關シテハ勅令ノ

○委員定ムル所ニ依ル

附 則 第十條ノ二

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ改正規定ハ本法施行前ニ現役ヲ離レタル者及現役中又ハ現役ヲ離レタル後死歿シタル者ニモ之ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス

前項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ本法ニ依ル

屯田兵官

高 級 官

中 級 官

下 級 官

本法施行ノ際現ニ退職恩給、免除恩給、増加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ本法規定ノ恩給金額ヲ受ケサル者ニハ各人ノ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額五分ノ一ヲ本法施行ノ日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ金額ニ達セシ

陸軍武官傷痕扶助及死亡ノ者祭葬並其ノ家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ

扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ現ニ各人ノ受クル金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額五分ノ一ヲ本法施行ノ日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ

金額ニ達セシム

前二項ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ニ付テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第五項ノ規定ニ依リ本法規定ノ恩給金額ヲ受クル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料金額ニ付テハ第五項ノ規定ヲ準用ス

元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案

第一條 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル屯田歩兵ニシテ明治二十七年勅令第

九十四號ニ依リ現役年限ヲ延長セラレタル者又ハ明治二十三年勅令第八十一號屯田兵條例
第四條ニ依リ其ノ兵役ヲ相續シタル者及此等ノ者ノ家督相續人ハ延長ノ現役ヲ勤務シタル期
間ニ相當スル扶助料ヲ請求スルコトヲ得

第二條 扶助料ハ一人ニ付現役延長勤務初ノ三箇年間ハ一箇月金一圓六十五錢其ノ後ハ一箇月
共金五十二錢五厘ノ割合ニ依ル一箇月未滿ハ之ヲ一箇月ト看做ス

前二戸ノ人員ハ三人ト推定ス若公文書ニ依リ十六歳以上六十歳未滿ノ者三人以上アリタルコト
金明カナルトキハ其ノ人員ニ依ル

第三條 本法ニ依リ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後一箇年以内ニ北海道廳長官ヲ經由シテ
其大藏大臣ニ請求スヘシ

第四條 扶助料ハ公債ヲ以テ支給スルコトヲ得但シ五十圓未滿ノ金額ハ現金ヲ以テ支拂フヘシ

第五條 大藏大臣ノ處分ニ不服アル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵細川護立 散會ヲ命ス

散會ヲ午前十一時十五分

第二回 大正五年二月二十四日

第三出席委員 正 中 二 月 二十八日

委員長 侯爵細川護立

○委員 委員川子爵 齋京 極 高 德

○委員 同爵川男爵 關宮 原 二 郎

出席國務大臣 大藏大臣 武富 時 敏

海軍大臣 加藤 友 三 郎

出席政府委員 法制局長官 高 橋 作 衛

陸軍省副參政官 三 浦 得 一 郎

陸軍主計總監 隈 德三

海軍省副參政官 田 中善立

海軍主計總監 志 佐勝

出席主務官

陸軍歩兵少佐 安藤紀三郎

開會 午後一時十五分

○委員長侯爵細川護立 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵細川護立 散會ヲ命ス

散會 午後二時五十七分

第三回 大正五年二月二十八日

出席委員

委員長 侯爵 細川護立 副委員長 男爵 村上敬次郎

○委員 男爵 子爵 東京 極 高德 同 男爵 久保田讓

同 男爵 兼 濟 同 男爵 山内長人

同 男爵 宮原 二郎

出席國務大臣

海軍大臣 加藤友三郎

出席政府委員

陸軍省副參政官 三浦得一郎

陸軍主計總監 隈 德三

海軍主計總監 志 佐勝

開會 午前十一時二十分

○委員長侯爵細川護立 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵細川護立 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十九分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 侯爵 細川護立印

副委員長 男爵 村上敬次郎印

(附註) 本案(本調)は、
出 籍 會 平南十一和二十八

○委員長 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

出 籍 會 大田

出 籍 會 大田

出 籍 會 大田

出 籍 會 大田

新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立

新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立

新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立
新軍主務廳長 齋藤川彌立

賣藥法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ賣藥法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

○委員長 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○委員 齋藤川彌立 籍會 命

○大正五年二月十八日委員及出席委員並其委員長

委員及出席委員並其職名

副委員長 男爵 毛利 五郎

會議

第一回 大正五年二月二十二日

出席委員

副委員長男爵 毛利 五郎 委員 子爵 野宮 定毅

同 子爵 米津 政賢 同 男爵 山名 義路

同 男爵 清水 資治 同 男爵 宇野清左衛門

出席政府委員

內務省衛生局長 千鶴 中 宮川 望

開會 午前十時三十五分

○副委員長男爵毛利五郎開會ヲ宣告ス賣藥法中改正法律案特別委員會

(參照) 獸醫

賣藥法中改正法律案

賣藥法中左ノ通改正ス

○第六條ニ左ノ但書ヲ加フ

○但シ獸醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

○副委員長男爵毛利五郎 本案ハ衆議院ノ提出ニ係ル所ナルヲ以テ請求ナキニ於テハ政府委員ハ出

席セサルヘシ本委員會ニ於テハ政府委員ノ出席ヲ求ムヘキヤヲ諮フ

○委員子爵野宮定毅 本員ハ政府委員ノ出席セラムコトヲ希望ス

異議ナシ

○副委員長男爵毛利五郎 政府委員ノ出席ヲ求ムヘシト議決シタル旨ヲ宣告ス

○副委員長男爵毛利五郎 政府委員ノ出席アリタルヲ以テ本案ニ付委員ノ質問ヲ許可ス

○委員男爵清水資治 本案ニ對シ政府委員ハ如何ナル意見ヲ持セラルルヤ

○政府委員中川望 賣藥法第六條ニ依レハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ル者ハ藥劑師、藥劑

師ヲ使用スル者及醫師ニ限定セラル此ノ第六條ハ大正三年本法制定ノ當時政府ノ提案ニハ「地

方長官ニ於テ藥品及調劑ニ付特種ノ智識ヲ有スル者ト認メタル者」トアリシヲ衆議院ニ於テ之

ヲ削除シ「醫師」ノ二字ニ修正セルモノナリ家畜用ノ賣藥ノ調製權ヲ獸醫ニ對シテ認ムルモ宜シ

カラスヤト謂フ獸醫ノ希望アリ且獸醫大會ニテハ之カ希望ヲ決議セリ然レトモ政府ハ假令獸醫ニシテ調製權ヲ有セサルモ藥劑師ニ之ヲ調製セシムレハ足ルヲ以テ強ヒテ之ヲ改正スルノ必要ヲ認メサリキ然ルニ今回衆議院ニ於テ獸醫ニ此ノ權ヲ認ムル方可ナリトノ議起リ又農商務省ニ於テモ獸醫ニ此ノ權ヲ認ムルコトヲ望ミシヲ以テ結局内務省ニ於テモ之ニ同意スルコトトナレリ

○委員男爵毛利五郎 家畜トハ如何ナル範圍ノモノヲ指スヤ鶏モ此ノ中ニ入ルヤ

○政府委員中川望 唯今ノ質問ニ對シテハ農商務省ノ政府委員ヨリ答辯スルヲ以テ可ナリト認ム而シテ家畜トハ何レノモノマテヲ指スヤ本員ニハ判明セサレトモ衆議院ニ於ケル農商務省當局ノ辯明ニ依レハ鶏ハ此ノ家畜中ニ入ルナリ而シテ家畜ノ範圍ハ明瞭ナラストスルモ事實上ハ定マリ居ルモノニシテ假令解釋上其ノ範圍ヲ擴クルコトアルモ實害ハ生セサルモノト信ス

○委員子爵米津政賢 賣藥ハ藥劑師之ヲ調製スルヲ得然ラハ藥劑師ハ家畜用賣藥ヲモ調製シ販賣シ得ルヤ

○政府委員中川望 然リ、藥劑師ハ家畜用タルト否トヲ問ハス賣藥ヲ調製シ販賣スルヲ得

○政府委員中川望 尙説明ノ補足ヲ爲スヘキ點アリ即第六條ニ列舉スル以外ノ者ト雖從來賣藥調製販賣ノ權利ヲ認メラレシモノハ第六條ノ制限ニ拘ラス賣藥ヲ調製販賣スルコトヲ得

○委員子爵米津政賢 獸醫ハ現行法ニ依レハ投藥ハ爲シ得ルモ賣藥ノ調製販賣ヲ爲スヲ得ストノコトナルカ本案ニ依ル改正ノ結果獸醫カ賣藥ヲ調製販賣スルトキハ更ニ營業ノ免許ヲ得サルヘカラサルカ

○政府委員中川望 獸醫ト雖投藥ヲ爲シ得ルハ論ナシ又本案ノ結果家畜用ノ賣藥ノ調製販賣ヲ爲ストキハ營業稅ヲ納付セサルヘカラス

○委員子爵米津政賢 賣藥ハ人間ニ在リテハ能ク其ノ良否ヲ判斷シテ用ウルヲ以テ差支ナキモ家畜ニ至リテハ人ノ想像ニ依リ適當ナルヘシト信シテ用ウルニ過キサルヲ以テ却テ有害ノ結果ヲ生スルコトナキヤ

○政府委員中川望 家畜用ノ賣藥ハ現在ト雖使用シ居レリ恰幼兒ニ服藥セシムルト同様ニテ更ニ差支ナシ

○委員男爵毛利五郎 廣告ニ對スルノ取締ハ如何ニスルヤ

○政府委員中川望 廣告ノ取締ハ法律ノ明示スル所ニ隨ツテ爲ササルヘカラス而シテ取締ノ困難ナルハ當局ニ於テモ之ヲ認ムル所ニシテ甚遺憾トスル所ナリ

○委員子爵米津政賢 家畜用ノ賣藥ハ醫師、藥劑師之ヲ調製シ得ト謂フ若本案ニシテ議會ヲ通過

セハ醫師ハ之ヲ調製スルヲ得サルコトトナラサルヤ
 ○政府委員中川望 然ラス家畜用ノ賣藥ヲ獸醫カ調製販賣シ得ルニ至ルノミ醫師、藥劑師ハ依然
 ○トシテ之カ調製販賣ノ權ヲ有ス
 ○委員男爵毛利五郎 家畜用ノ賣藥ノ種類ヲ問フ
 ○政府委員中川望 凡三百種以上アリ
 ○副委員長男爵毛利五郎 農商務省ノ政府委員ニ對シ質問スルノ要ナキヤ其ノ要ナケレハ本案ニ付
 意見ヲ述ヘラレタシ
 ○委員男爵清水資治 斯ノ如キ案ハ之ヲ通過セシムル方便利ナリ即獸醫ノ權能ヲ十分ナラシムル
 ○コトハ望マシキコトナリ故ニ本案ニ賛成ス
 ○委員男爵山名義路 本案ニ賛成ス
 ○副委員長男爵毛利五郎 他ニ異議ナキヲ以テ本案ハ可決セラレタルモノト認メテ異議ナキヤヲ諮
 異議ナシ
 ○副委員長男爵毛利五郎 本案ハ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

賣藥法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十二日

右特別委員副委員長

男爵 毛利 五郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 三毛 秀印

副委員長 男爵 毛利 五郎 郎印

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

古物商取締法中改正法律案

古物商取締法中左ノ通改正ス

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ盜品ニ係ルトキハ營業者ヨリ

シタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサル

トキハ盜難又ハ遺失ノ日ヨリ二箇年ヲ經過シタル後被徵收者ニ還付スヘシ

○委員馬屋原彰 全國ノ質屋營業者並古物商ノ數及其ノ増減如何又其ノ取扱ニ係ル盜品不正品ノ

増減ノ實況ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員湯淺倉平 質屋營業者ノ數ハ明治四十三年末ニハ二萬九千七百六十五、同四十四年末

ニハ二萬九千八百六、大正元年末ニハ二萬九千三百十八、同二年末ニハ二萬九千六百九十四、

同三年末ニハ二萬九千三百四十五ニシテ古物商ノ數ハ明治四十三年末ニハ二十一萬二千八百二

十、同四十四年末ニハ十九萬二千八百五十一、大正元年末ニハ十九萬七千八百五十、同二年

末ニハ二十一萬二千十一、同三年末ニハ二十萬七千九百七十三ナリ

○委員馬屋原彰 各地方ニ於ケル營業者増減ノ狀況ヲ書類ニテ示サレタシ

○政府委員湯淺倉平 唯今説明シタル計數ニテ年年ノ増減ノ數ハ明ナリト思フモ猶不十分ト認メ
ラルルヤ

○委員馬屋原彰 尙一層明瞭ナラシムル爲ニ書類ヲ配付セラルレハ便利ナリ又警察官ニ於テ徵收
スル盜品不正品ノ數ハ如何此ノ數ハ新聞紙其ノ他ノモノニ依レハ次第ニ増加スル傾向アルカ如
シ果シテ然ルカ

○政府委員湯淺倉平 不正品ノ數ニ關シテ調査困難ナリ不正品ト認メテ警察官カ質屋ヨリ徵收シ
タルモノニ付テハ調査シタルモノアルヲ以テ參考ノ爲貴覽ニ供スヘシ然レトモ古物商ヨリ徵收
シタル物件ニ付テハ未調査セシモノナシ

○委員古賀廉造 近年贓品中金錢以外ノ物漸次増加セルノ傾向アリト謂フ果シテ然ルカ

○政府委員湯淺倉平 茲ニ即答シ難シ

○委員下條正雄 衆議院ヨリ本案ヲ提出スルニ至リタル理由即現行法ノ最不都合ナル點ハ何レニ
在リヤ又政府ハ本案ニ同意スルヤ否ヤ若同意セストスルモ現行法中改正ヲ要スル箇所如何ニ付
意見ヲ有スルヤ

○政府委員湯淺倉平 衆議院ニテ本案ヲ發議セラレシ原因ハ質屋營業者カ警察官ヨリ特別ノ取締

ヲ受ケ苦痛ヲ感スルノ結果ナリト考フ現行法第三條ニ依レハ質契約ヲ爲スノ際質屋業者ハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認セサルヘカラス然ルニ斯ノ如キコトハ至難ナリ此ノ點ニ付第三十一回帝國議會ニ於テ衆議院ニ改正ノ企アリ質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察官ニ申告スヘシトノ案ヲ發議シタリ之ニ對シ政府委員ノ説明ニ依レハ「確認」トハ質屋業者カ品物ヲ質取スルニ方リ善良ナル注意ヲ以テスヘシトノ意味ニ外ナラスシテ裁判所ノ採ル如キ確認ノ方法ヲ行フ必要ナシトノ趣旨ナリ衆議院ハ此ノ言明ヲ信シテ第三條ノ改正案ヲ撤回シタリ然ルニ今回ハ之ト異リタル文字ニテ改正ヲ企ツルモノナリ次ニ第五條第二項ニハ「質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ」ト規定ス此ノ點ニ付衆議院ニ於テハ質札ノ交付ヲ爲ササルコトカ却テ相互ノ爲ニ便利ナルコトアリテ絕對的ニ質札ヲ交付スヘシトノ規定ハ當業者ノ迷惑スル所ナリト主張セリ此ノ主張ニ對シ政府ハ質札ハ質契約ヲ證明スル唯一ノ證據ニシテ之ナクハ雙方ニ紛争ヲ惹起スル虞アリト述ヘ政府ト衆議院トノ意見一致セサリキ然ルニ今回第五條第二項ニ但書ヲ加ヘ例ヘハ僅少ノ金額ノモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リテ質札ノ交付ヲ省略スルコトヲ得シメムトス又第十一條ニ於テ現行法ハ「質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得」トアリ茲ニ所謂處分

シ得トハ質屋業者カ質物ノ所有權ヲ取得スルノ意味ナリヤ否ヤ不明ナルヲ以テ流質期限經過ノ時ヲ以テ質物ノ所有權ヲ取得スト改正シタシトノ希望ニ基キテ改正セムトス尙此ノ箇條ハ第十六條ノ改正ト關聯ス第十六條ハ質物中ニ遺失品若ハ盜品アルトキハ警察官ハ之ヲ徵收シテ遺失主又ハ被害者ニ還付スルヲ得ルノ規定ナルカ質屋側ノ意見ニ依レハ質物ノ遺失品又ハ盜品ナルコトハ裁判ノ確定ヲ待タサルヘカラス然ルニ警察官ニ於テ質物ノ遺失物又ハ盜品ナルコトヲ認定スルトキハ質屋ヨリ之ヲ徵收シテ被害者ニ還付スルコトヲ得此ノ如キ規定ハ質屋業者ヲシテ不安ナラシムルヲ以テ之カ不安ヲ除ク爲ニ警察官ノ徵收還付ニ關スル權能ヲ削リタキ希望ヲ有ス政府ハ絶エス之ニ反對セリ但シ此ノ點ハ政府ノ意見ノ如クニナレリ而シテ衆議院ニテ改正セシ點ハ警察官ニテ遺失物若ハ盜品ニ係ル質物ヲ徵收シタルトキ被害者ノ不明ナルコトアルヨリ之カ還付ニ關シテハ現行法ニハ「徵收ノ日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ」トアルヲ「盜難又ハ遺失ノ日ヨリ二箇年ヲ經過シタル後被徵收者ニ還付スヘシ」ト爲シタルニ在リ是レ民法ノ規定トノ權衡ヲ保ツ爲ナリ次ニ當局者ハ本案ノ第三條及第五條ニ對シテハ全然同意スルモ第十一條及第十六條ノ改正ニ對シテハ尙考究ヲ要スヘキ點多アリト考フ又現行法ニハ法人處罰ノ規定ナシ然レトモ法人ニシテ質屋業者アルカ故ニ刑法ノ改正ニ伴ウテ法人ニ對スル制裁

規定ヲ設クルノ必要アリ又傳染病豫院法ノ規定ト對比スルトキハ削除スヘキ點アリ更ニ今少シク明瞭ナル規定ヲ要スヘキ事項モアリ又第十六條ニ付テハ根本的ニ改正スルノ必要アリト考フ警察官カ質物ヲ徵收シ被害者ニ還付スルノ處分ヲ削除シタシトノ質屋側ノ希望ハ絶對ニ賛成シ難シサレト刑法及民法トノ關係上之ニ對シテ相當ノ保護ヲ與フヘキ必要アリト考フ

○委員下條正雄 第五條ノ改正ハ質屋及質置主共ニ善意ナラハ差支ナカラムモ惡意ナルトキ質契約ニ付一片ノ證據モナクシテ質置主カ死亡シタルカ如キ場合ニハ困難ナル問題ヲ生スヘシ政府委員ノ所見如何

○政府委員湯淺倉平 貴問ノ如ク憂慮スヘキ問題ヲ生スル場合モアラム然レトモ或ハ又質札交付ノ煩ヲ省キテ些ノ弊害ヲモ生セサルコトモアラム故ニ命令ノ定ムル所ニ依リ之カ交付ヲ省クコトヲ得ルコトトセムトス而シテ其ノ命令ノ規定ニ付テハ慎重ノ注意ヲ要スト雖畢竟質物ノ金額僅少ナルトキ質置主下面識アル場合又ハ質契約短期ナル場合ニ適用シ屈伸ヲ自由ナラシムル考ナリ其ノ他質契約ハ土地ニ依リテ習慣ヲ異ニスルヲ以テ内務省ニテハ概略ノ規定ヲ爲シ地方長官ノ行政命令ニテ取捨シ得ルコトトシ以テ其ノ弊害ヲ除カムトス

○委員下條正雄 不正品ナルコト明瞭トナリタル物ト雖第十一條及第十六條ヲ適用スルノ結果之

ヲ被害者ニ還付スルコト能ハストセハ斯カル規定ハ被害者ニ對シ極メテ不利ノモノナラスヤ

○政府委員湯淺倉平 質屋ノ手ニ在ル質物ノ流質期限經過セシトキ其ノ質物カ不正品ナルコト判明シタル場合ニハ警察官ハ之ヲ徵收シ得ルヤ否ヤハ疑問ナルカ質屋ハ之ヲ徵收スルコト能ハスト解シ警察官ハ之ヲ徵收シ得ト解ス政府ノ信スル所ニ依レハ質屋營業者ハ民法ノ規定ヨリモ質屋取締法ニ依リテ特殊ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナリ而シテ犯罪豫防ノ爲ニハ質屋營業者ニ對シ特別ノ取締ヲ爲スヲ要スルハ當然ナリ殊ニ第十六條ハ強制處分ヲ定メタル規定ニシテ民事上ノ關係ヲ定ムルモノニアラス即質屋カ質物ノ處分權ヲ得タルト否トハ問フ所ニアラサルナリ然レトモ今度ノ改正案ニ依レハ第十六條ノ法文中前段ニハ變更ナク單ニ被徵收者ニ還付スヘキ期限ノ起算點ヲ改正セシニ止マレリ第十一條ノ改正ハ之ヲ以テ第十六條ノ適用ニ制限ヲ付スルノ法意ニアラスヤト考フ此ノ點ニ付衆議院ノ特別委員會ニ於テ本案提出者ハ然ラスト言明セシモ然リト考フヘキ理由アリト信ス

○委員男爵阪井重季 第十六條ノ「質物ニシテ云云」ト謂フハ如何ナル期間ヲ指スカ質物タルノ期間不明ナリ品物ノ存スル限リ質物ト看做スヘキヤ然ラスハ第十一條ニテ其ノ期限定マルト解セサルヘカラス如何

○政府委員湯淺倉平 質物ニシテ質屋ノ手ヲ離レテ他人ニ移リシトキハ適用ナシ流質期間經過ノ後質屋ノ手ニ在ルトキハ第十六條ヲ適用シテ可ナリト信ス

○委員馬屋原彰 質屋營業者カ法規違反ノ爲營業ヲ禁止セラルルコトハ近年増加スルノ傾向アリヤ若然リトセハ之カ調査書ヲ提出セラレタシ又廣義ナル贓物ノ文字カ狹義ナル盜品ト改メラレシハ質屋營業者ニ如何ナル影響ヲ及ホシタリヤ又不正品ノ文字ハ廣義ナリ然ルニ之ヲ盜品又ハ遺失物ニ限ラハ警察官ハ其ノ他ノ不正品ニ手ヲ觸ルルコト能ハサルニアラスヤ

○政府委員湯淺倉平 質屋ノ法規違反ノ調査ハ之ナシ第三條ニ違反セシ件數ハ明ナル故提出スヘシ第十六條ノ規定ニ遺失物若ハ盜品ノミヲ舉示スルハ遺失物若ハ盜品ハ極メテ判明シ易キカ故ニ横領若ハ詐欺取財ニ係ル物ハ其ノ事件錯雜シテ裁判ノ結果ヲ待タサレハ不正品ナルヤ否ヤ不明ナリ又贓品ナル文字ヲ用フル場合ニハ裁判ノ結果尙該物品ニシテ不正品ナラサルトキハ質屋業者ハ甚迷惑ヲ感スヘシ

○委員馬屋原彰 然ラハ質物カ遺失物若ハ盜品ニ係ルヤ否ヤハ全然警察官ノ判斷ニ任スルヤ又不正品トハ遺失物盜品以外ノ物ヲ指スヤ

○政府委員湯淺倉平 然リ

○委員男爵阪井重季 第十六條ノ質物トハ流質期限經過セサルモノニ限ル意味ノ如シ先ツ此ノ點ヲ明ニシタシ

○政府委員湯淺倉平 貴説ノ如ク解シテ可ナラム

○委員下條正雄 先程ノ問答ニ依レハ不正品トハ遺失物及盜品以外ノ物ナリトノコトナルカ本員ハ此ノ二者ヲモ包含スルモノト解ス如何

○政府委員湯淺倉平 然リ

○委員下條正雄 流質期限ハ法定ノモノナリヤ又ハ契約ニ依リテ定マルモノナリヤ

○政府委員湯淺倉平 當事者ノ契約ニ依リテ定マルモノナリ唯第六條ノ規定ニ依レハ質屋ハ流質期限ヲ揭示スルヲ要ス而シテ當事者間ニ明示ノ契約ナキトキニハ其ノ揭示シタル期間ニ依ル

○委員下條正雄 流質期間ヲ當事者ノ自由契約ニ依ルトスレハ質屋營業者ハ極メテ短期間ニ質物ノ所有權ヲ獲得シ得ルコトトナラスヤ

○政府委員湯淺倉平 然リ是レ畢竟スルニ法文ノ不備ナリ

○委員古賀廉造 政府ハ第十一條ノ改正案ニ同意スルヤ

○政府委員湯淺倉平 尙考究ヲ要スルモノト考フ

○委員古賀廉造 本案ノ骨子トモ見ルヘキ規定ハ第十一條ナリ而シテ被害者ハ本條ノ爲ニ大ニ迷惑ヲ感スヘシ其ノ他ノ法文ニ付テハ同條ノ可否如何ニ依リテ定ムルヲ得ヘシ

○委員下條正雄 本員モ質屋營業者ノ便利ヲ計ルノ趣旨ニハ同意ヲ表スルモ爲ニ被害者ノ利益ヲ害スルハ如何カト考フ而シテ流質期間ヲ法定スルニアラサレハ不正ノ質屋ニ對スル取締上甚不可ナルニアラスヤ

○委員古賀廉造 質屋營業者ニ對シテ民法ヲ適用スルトキハ差支アリヤ

○政府委員湯淺倉平 至難ナリト考フ何トナレハ是レ舊幕時代ヨリノ習慣ニ基クモノナレハナリ

○委員侯爵大炊御門幾麿 當業者ノ違法事項ノ數如何

○政府委員湯淺倉平 第三條ニ違反シテ質置主カ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認セサリシ犯罪ハ四千八百六十二件、不正品ノ疑アルコトヲ警察官ニ申告セサリシ犯罪ハ八百七十件、質札ヲ交付セサリシ犯罪ハ三千百一十一件ナリ其ノ他ニ付テハ未取調タルモノナシ

○委員長侯爵大炊御門幾麿 今日ハ質問ヲ止メ散會スヘキヤヲ諮フ

○委員下條正雄 本日ハ質問ヲ止メテ散會シ更ニ次會ニ於テ討議セラレムコトヲ望ム

○委員男爵阪井重季 第十一條及第十六條ニ付テハ尙研究スヘキ點アリ依テ本日ハ是ニテ散會セ

ラレタシ

○委員長侯爵大炊御門幾麿 次會ニ於テ更ニ審議スヘキコトヲ宣告シ散會ヲ命ス

○委員 散會 午後三時十六分

第二回 大正五年二月二十六日

出席委員

委員長 侯爵 大炊御門 幾麿	副委員長 馬屋原 彰
委員 子爵 藤谷 爲寬	同 子爵 豊岡 圭資
同 男爵 阪井 重季	同 下條 正雄
同 古賀 廉造	同 堀 正一
出席政府委員	内務省警保局長 湯淺 倉平

開會 午後一時十九分

○委員長侯爵大炊御門幾麿 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長侯爵大炊御門幾麿 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後二時九分

第三回 大正五年二月二十七日

出席委員

委員長 侯爵 大炊御門 幾麿

副委員長

馬屋原 彰

委員 子爵 藤谷 爲寬

同 子爵

豐岡 圭資

同 男爵 阪井 重季

同 同

下條 正雄

同 古賀 廉造

同 同

堀 正生

出席政府委員

出席委員

內務省警保局長

湯淺 倉平

開會 午前十時二十九分

○委員長侯爵大炊御門幾麿 開會ヲ宣告ス

○委員長侯爵大炊御門幾麿 散會ヲ命ス

散會 午前十時四十九分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

質屋取締法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十七日

右特別委員長

侯爵 大炊御門 幾麿

貴族院議長公爵徳川家達殿

古物商取締法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十七日

右特別委員長

侯爵 大炊御門 幾麿

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 侯爵 大炊御門 幾麿印

副委員長

馬屋晴原 彰彰印

大正五年二月二十七日

大森晴門 義輝

大正五年二月二十七日

副委員長

古谷光文

副委員長

古藤商通

副委員長

實業部

副委員長

出府政府委員

大森晴門 義輝

大正五年二月二十七日

內務省

古谷光文

副委員長

實業部

副委員長

(附註) 同日議決ニ對出...

實用新案法中改正法律案(衆第十六號)特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ實用新案法中改正法律案(衆第十六號)特別委員ヲ選定スル

コト左ノ如シ

委員長

德川 義親

副委員長

中御門 經恭

委員

大宮 以季

委員

清岡 長言

委員

平野 長祥

委員

德川 厚

委員

藤田 四郎

委員

磯部 四郎

委員

尼崎 伊三郎

○大正五年二月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	侯爵	徳川	義親
副委員長		藤田	四郎

會議

第一回 大正五年二月二十五日

出席委員

副委員長	藤田	四郎	委員	子爵	大宮	以季	
同	子爵	清岡	長言	同	男爵	平野	長祥
同		磯部	四郎	同	同	尼崎	伊三郎
出席政府委員						川	才四郎

農商務省副參政官 男爵 坪井九八郎

○大正五年二月二十五日開會ノ時、委員及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○副委員長藤田四郎開會ヲ宣告ス

(參照)

實用新案法中改正法律案(衆第十六號)

實用新案法中左ノ通改正ス

第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長シ更ニ四年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登録料トシテ第一回ノ延長ニ在リテハ金三十

圓、第二回ノ延長ニ在リテハ金六十圓ヲ納付スヘシ

○委員藤田四郎 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員男爵坪井九八郎 本案ハ第三十二回帝國議會ニ於テ衆議院ヨリ貴族院ニ提出セラレ貴

族院ニ於テハ委員會ヲ通過シタルモ會期切迫ノ爲議決セラルルニ至ラサリキ而シテ本案ノ要旨

ハ現行法ノ實用新案權ノ存續期間ヲ更ニ四年タケ延長セムトスルニ在リ現行法ノ保護期間六年

ハ短キニ失シ權利者ハ折角其ノ權利ヲ行使シテ事業ヲ爲サムトスルモ六年ノ期間ハ忽ニ經過シ

テ他ニ競争者ヲ生シ十分ナル保護ヲ得サルノ憾アリ故ニ本案ハ其ノ期間ヲ延長シ以テ權利者ヲ

- 十分ニ保護セムトスル趣旨ニシテ事理極メテ簡單ナリ何卒贊成可決セラレムコトヲ希望ス
- 委員男爵平野長祥 政府委員ノ説明ニ依レハ政府ニ於テハ本案ノ通過ヲ希望スルカ如シ果シテ然ラハ何故ニ政府ヨリ議會ニ提案セザリシヤ
- 政府委員崎川才四郎 本案ニ付テハ前回ニモ一通リ調査シタルモ未今日程熱望セザリキ其ノ後調査ノ歩ヲ進ムルニ從ヒ益本案成立ノ必要ヲ感スルニ至レリ尙又其ノ必要アルハ十分ニ認ムル所ナリシト雖他ニモ改正ヲ要スト認ムル點アルヲ以テ單ニ本件タケニ付改正案ヲ提出スルハ他ノ事項ト權衡ヲ失スルヲ以テ差控ヘ居タリ
- 委員磯部四郎 本案ノ趣旨ハ要スルニ從來ノ實用新案權ハ前後ヲ通シ六年ニシテ消滅ス故ニ權利者ハ其ノ利益ヲ十分ニ享有シ得サルヲ以テ尙權利存續ノ年限ヲ延長シ之ヲ保護セムトスルニ在リヤ
- 政府委員崎川才四郎 然リ
- 委員藤田四郎 延長ヲ爲ストキハ更ニ實用新案ニ付審査ヲ要スルヤ
- 政府委員崎川才四郎 之ヲ要セス(衆第十六號)
- 委員磯部四郎 實用新案權ノ最長期ヲ十年トシ其ノ期間ヲ經過スレハ保護ヲ解キテ弊害ナキヤ

- 政府委員崎川才四郎 當局ハ十年位ノ保護ヲ與フレハ十分ナリト信ス
- 委員男爵平野長祥 本員ハ本案ノ如ク新案權ノ存續期間ヲ三段ニ分タサル方可ナリト信ス政府ノ所見如何
- 政府委員崎川才四郎 現在ノ狀況ヲ見レハ三年ノ登録ヲ爲シタル後又三年ノ登録ヲ爲ス者ハ僅ニ其二割三過キサレヲ以テ本案ニ依リ更ニ延期ヲ望ム者ハ一層減少スルナラムト思ハル且又實用新案權ノ利益ノ見込十分ニ明ナラザルニ當リ多額ノ登録料ヲ拂フハ當事者ノ不利益トスル所ナリト思ヒシカ故ニ年限ヲ三段ニ區分シタルナリ
- 委員子爵清岡長言 實用新案登録ノ出願件數幾何ナリヤ
- 政府委員崎川才四郎 最近ノ統計ニ依レハ一年間ニ約一萬五千八百件アリ其ノ内二割四分ヲ許可ス第二回目ノ出願ハ許可件數ノ約十分ノ一ナリ
- 委員子爵清岡長言 登録料ハ國庫ノ歳入トナルヤ
- 政府委員崎川才四郎 然リ一般收入トシテ印紙收入ノ中ニ入ルナリ
- 委員藤田四郎 實用新案ニ關スル法律案ニシテ本案ノ外衆議院ニ於テ審議中ノモノアルカ如シ如何

○政府委員崎川才四郎 現ニ衆議院ニテ審議中ノモノニ特許法中改正法律案及實用新案法中改正
 ○法律案アリ
 ○副委員長藤田四郎 質問盡キタルヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス
 ○委員可決
 ○副委員長藤田四郎 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス
 ○散會 午後一時五分
 ○(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ
 ○實用新案法中改正法律案(衆第十六號)
 右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
 大正五年二月二十五日
 ○副委員長藤田四郎
 ○委員長 侯爵 德川義親印

副委員長

藤田 四郎印

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正五年二月十八日議決シ以テ日支銀行法案委員長 伯爵柳員澤 副委員長 子爵岡部長職

開會 議決委員會會議ニ出席スル一詳

第一回 大正五年二月十九日

日支銀行法案外一件特別委員會

- 伯爵 谷 森 眞 男
- 伯爵 中 島 永 元
- 伯爵 仁 尾 惟 茂
- 伯爵 若 槻 禮 次 郎
- 子爵 勝 田 主 計
- 子爵 佐 藤 友 右 衛 門
- 子爵 安 田 善 三 郎

副委員長 子爵 岡 部 長 職

委員長 伯爵 柳 員 澤 副委員長 子爵 岡 部 長 職

委員 子爵 松 平 直 平 子爵 水 野 直 政

同 藤 新 平 岡 野 敬 次 郎

同 本 多 政 以 同 男 爵 東 郷 安

同 森 眞 男 同 中 島 永 元

同 尾 惟 茂 同 若 槻 禮 次 郎

同 田 主 計 同 佐 藤 友 右 衛 門

出席國務大臣 大藏大臣 武 富 時 敏

出席政府委員 外務省參政官 柴 四 朗

大藏省參政官 加 藤 政 之 助

大藏書記官 森 俊 六 郎

開會 午前十時二十九分

日支銀行法案外一件特別委員會

○委員長伯爾柳澤保惠開會ヲ宣告ス

(參照)

日支銀行法案

第一章 總則

第一條 日支銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ上海ニ置ク

第二條 日支銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ三十年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ

認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 日支銀行ノ資本金ハ二千萬圓トシ之ヲ二十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ百圓トス但シ政府

ノ認可ヲ受ケテ資本金額ヲ增加スルコトヲ得

第四條 日支銀行ノ株式ハ記名式トシ日本人及支那人ニ限り所有スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日支銀行ニ總裁一人副總裁二人理事監查役各三人以上ヲ置ク

副總裁一人、理事及監查役ノ中三分ノ二以内ハ支那人タルコトヲ得

第六條 總裁及日本人タル副總裁ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ

五年トス

日本人タル理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府
其ノ中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ヲ四年トス

支那人タル副總裁ハ二百株以上支那人タル理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ
於テ之ヲ選舉シ政府ノ認許ヲ受クルモノトシ其ノ任期ハ副總裁ハ五年理事ハ四年トス

監查役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ三年トス

第七條 總裁ハ日支銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日支銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ日支銀行ノ業務ヲ監查ス

第八條 總裁、副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ

得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 定時株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監査役又ハ資本ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ總裁ニ提出シテ臨時株主總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スルコトヲ得

第四章 營業

第十二條 日支銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 確實ナル擔保アル貸付
- 二 公債、社債及株式ノ應募、引受又ハ買入
- 三 信託ノ業務
- 四 諸預リ金及保護預リ金
- 五 證券ノ割引及代金取立
- 六 爲替及荷爲替
- 七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換
- 八 他銀行ノ業務代理

第十三條 日支銀行ハ官公署ノ委託ニ依リ金錢及有價證券ノ出納保管ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得

第十四條 日支銀行ハ本法ニ定メタルモノヲ除クノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五章 債券

第十五條 日支銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金及其ノ所有ニ係ル公債證券、社債券、株券ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 日支銀行債券ノ所有者ハ日支銀行ノ貸付金、其ノ所有ニ係ル公債證券、社債券及株券ニ付他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條 債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十八條 日支銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 日支銀行ハ券面金額二十圓以下ノ債券ヲ發行スル場合ニハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ

得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス
 第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニハ商號及商法第七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ
 掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ
 事項ハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額及商法第七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル
 事項トス
 賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケ
 ル債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第二十條日支銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三
 條第三項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ
 第二十一條日支銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ債券ヲ償還スル場合ニ於テ割増金ヲ
 附與スルコトヲ得
 第二十二條日支銀行ハ債券借換ノ爲一時第十五條ノ制限ニ依ラズ低利ノ債券ヲ發行スルコト

ヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三月内ニ其ノ發行券面額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘ
 シ
 第六章 準備金
 第二十三條 日支銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ、
 利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ、金銀比價ノ變動ニ備フル爲利益ノ百
 分ノ五以上ヲ積立ツヘシ
 第七章 政府ノ監督及補助
 第二十四條 政府ハ日支銀行ノ業務ヲ監督ス
 第二十五條 日支銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十六條 日支銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ
 得ス
 第二十七條 主務大臣ハ日支銀行ニ於テ法律命令若ハ定款ニ背戻シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ア
 リト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ總裁、日本人タル副總裁、理事ヲ解職シ又ハ監査役、支那人タル副總裁、理事ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第二十八條 日支銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル報告書ヲ提出スヘシ

第二十九條 政府ハ日支銀行監理官ヲ置キ日支銀行ノ業務ヲ監視セシム

第三十條 日支銀行監理官ハ何時ニテモ日支銀行ノ金庫、帳簿、諸般ノ文書及財産ヲ検査スルコトヲ得

日支銀行監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日支銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日支銀行監理事ハ株主總會其ノ他ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條 株主ニ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本ニ對シ一年百分ノ六ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ開業初期ノ末日ヨリ十年ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ額ハ拂込資本金額ノ百分ノ六ヲ超過スルコトヲ得

第八章 罰則

第三十二條 日支銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁、副總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下

ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ認可ヲ受ケザルトキ

第二十五條、第二十條、第二十二條第二項、第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

第三十三條 日支銀行ノ總裁、副總裁又ハ理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二

百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第三十四條 政府ハ設立委員ヲ命シ日支銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十五條 設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第三十六條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ日支銀行設立

ノ免許ヲ申請スヘシ

前項ノ免許ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第三十七條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日支銀行總裁ニ引渡スヘシ

第三十八條 設立初度ノ日本人タル理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

滿洲銀行法案

第一章 總則

第一條 滿洲銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ奉天ニ置ク
第二條 滿洲銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ五十年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 滿洲銀行ノ資本金ハ一千萬圓トシ之ヲ二十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ五十圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ資本金額ヲ增加スルコトヲ得

第四條 滿洲銀行ノ株式ハ記名式トシ日本人及支那人ニ限り所有スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 滿洲銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁及副總裁ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五年トス理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ヲ四年トス
監查役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ三年トス

第七條 總裁ハ滿洲銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ滿洲銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ滿洲銀行ノ業務ヲ監查ス

第八條 總裁、副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 定時株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監查役又ハ資本ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ總裁ニ提出シテ臨時株主總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第四章 營業

第十二條 滿洲銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一年賦償還又ハ定期償還ノ方法ニ依リ不動産、商租權其ノ他不動産上ノ權利ヲ擔保トスル貸付

二 鐵道其ノ他確實ナル擔保アル貸付

三 公債證券、社債券、株券其ノ他ノ有價證券又ハ貨物ヲ質トスル貸付

四 諸預リ金及保護預リ

五 證券ノ割引及代金取立

六 爲替及荷爲替

七 信託ノ業務

八 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換

九 他銀行ノ業務代理

前項ノ外營業上餘裕金アルトキハ公債、社債及株式ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得

第十三條 滿洲銀行ハ官公署ノ委託ニ依リ金錢及有價證券ノ出納保管ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得

第十四條 滿洲銀行ハ本法ニ定メタルモノヲ除クノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス但シ主務大臣

ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五章 債券

第十五條 滿洲銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在

額高ヲ超過スルコトヲ得ス

債券ヲ發行スル場合ニハ商法第百九十九條ノ規定ヲ適用セス

第十六條 滿洲銀行債券ノ所有者ハ滿洲銀行ノ貸付金ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨

濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條 債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因

リ記名ト爲スコトヲ得

第十八條 滿洲銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 滿洲銀行ハ券面金額二十圓以下ノ債券ヲ發行スル場合ニハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ

得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス

第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニハ商號及商法第百七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ

掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ
 事項ハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額及商法第七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル
 事項トス
 賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケ
 ル債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十條 滿洲銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三
 條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第二十一條 滿洲銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ債券ヲ償還スル場合ニ於テ割増金ヲ
 附與スルコトヲ得

第二十二條 滿洲銀行ハ債券借換ノ爲一時第十五條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコト
 ヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三月内ニ其ノ發行券面額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘ
 シ

第六章 準備金

第二十三條 滿洲銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ、
 利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第二十四條 政府ハ滿洲銀行ノ業務ヲ監督ス

第二十五條 滿洲銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 滿洲銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ
 得ス

第二十七條 滿洲銀行ハ年賦償還貸付金ノ利子ニ付每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受
 ケ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十八條 主務大臣ハ滿洲銀行ニ於テ法律命令若ハ定款ニ背戾シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ
 リト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ總裁、副總裁、理事ヲ解職シ又ハ監査役ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 滿洲銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル報告書ヲ提出スヘシ

第三十條 政府ハ滿洲銀行監理官ヲ置キ滿洲銀行ノ業務ヲ監視セシム書及出スヘシ
第三十一條 滿洲銀行監理官ハ何時ニテモ滿洲銀行ノ金庫、帳簿、諸般ノ文書及財産ヲ検査スルコトヲ得

滿洲銀行監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ滿洲銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得
滿洲銀行監理官ハ株主總會其ノ他ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十二條 株主ニ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本ニ對シ一年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ開業初期ノ末日ヨリ十年ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ額ハ拂込資本金額ノ百分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第三十三條 滿洲銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁、副總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサル者ハ此ノ限ニ在ラス
一 本法ニ依リ認可ヲ受クヘキ場合ニ認可ヲ受ケザルトキ

第二十五條、第二十條、第二十二條第二項、第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ
第三十四條 滿洲銀行ノ總裁、副總裁又ハ理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第三十五條 政府ハ設立委員ヲ命シ滿洲銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
第三十六條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ
第三十七條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ滿洲銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ
前項ノ免許ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ
第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ滿洲銀行總裁ニ引渡スヘシ
第三十九條 設立初度ノ理事及監查役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス
(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之
○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス
散會五午前十時十二分

第二回 大正五年二月二十二日

○委員出席委員

○委員長 伯爵柳澤保惠 副委員長 子爵岡部長職
 ○委員 子爵松平直平 子爵水野直
 同 岡野敬次郎 同 東郷安
 同 谷森眞男 同 中島永元
 同 尾惟茂 同 若槻禮次郎
 同 勝田主計 同 佐藤友右衛門
 出席國務大臣 立憲委員 外務大臣 男爵 井田菊次郎
 出席政府委員 大藏省參政官 加藤政之助
 大藏書記官 森俊六郎
 開會 午前十時十九分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十七分

第三回 大正五年二月二十四日

出席委員

出席委員 伯爵 柳澤保惠

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

散會 午前十一時四十七分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

散會 午前十一時四十七分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

散會 午前十一時四十七分

出席國務大臣

出席委員

大藏大臣

武富時敏

出席政府委員

大藏大臣

加藤 政之助

出席國務大臣

大藏省參政官

森 俊六郎

開會 午前十時二十八分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

第四回 大正五年二月二十八日

出席委員

同

岡部 長職

出席委員長

伯爵 柳澤 保惠

岡部 長職

第三回 委員 子爵 且二松四平

同

水野 直

同會 子爵 且後十藤

同

本多 政以

○委員長 同 伯爵 男爵 清東 命郷

同

谷 森 眞 男

○委員長 同 伯爵 男爵 中 島 永元

同

仁尾 惟茂

同 若槻 禮次郎

同

勝田 主計

同 佐藤 友右衛門

同

安田 善三郎

出席國務大臣

同

大隈 重信

出席閣總理大臣

伯爵

武富 時敏

出席外務大臣

伯爵 男爵

石井 菊次郎

出席政府委員 二十八日

大藏書記官

森 俊六郎

開會 午前十時十五分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午後零時二十四分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

日支銀行法案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十八日

右特別委員長

○委員

○委員

○委員

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十八日

右特別委員長

○委員

○委員

○委員

○委員

○委員

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

伯爵 柳 澤 保 惠

簡易生命保險法案特別委員會

簡易生命保險特別會計法案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正五年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ簡易生命保險法案、簡易生命保險特別會計法案特別委員ヲ

○選定スルコト左ノ如シ

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

伯爵 林 博 太 郎

子爵 前 田 利 定

子爵 本 多 忠 鋒

仲 小 路 廉

小 松 謙 次 郎

山 本 達 雄

男爵 眞 田 幸 世

男爵 長 松 篤 業

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月二十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正五年二月十八日開議、討論、以テ前委員長伯爵林博、副委員長子爵前田利定

委員長 伯爵林博 副委員長 子爵前田利定

委員 桑田熊藏 荒井泰治 鎌田勝太郎 日高榮三郎

前第一回大正五年二月二十一日開議、討論、以テ前委員長伯爵林博、副委員長子爵前田利定

前委員長出席委員 桑田熊藏

委員長 伯爵林博 副委員長 子爵前田利定

委員 子爵前田利定 桑田熊藏 荒井泰治 鎌田勝太郎 日高榮三郎

出席國務大臣 遞信大臣 箕浦勝人

出席政府委員 遞信省參政官 木下謙次郎

法制局長官 高橋作衛

法制局參事官 松本丞治

法制局參事官 馬場鏌一

遞信省參政官 木下謙次郎

出席委員

遞信省副參政官	荒川 兼五郎
遞信省通信局長	田中 次郎
遞信省管船局長	若宮 貞夫
遞信書記官	中西 四郎
爲替貯金局長	肥後 八次
爲替貯金局事務官	其吉 平吉

開會 午前十時三十六分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

簡易生命保險法案山ノ内一六

第一條 簡易生命保險ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 簡易生命保險事業ハ保險會社之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 簡易生命保險ニ於テハ政府カ保險契約者又ハ第三者ノ生死ニ關シ保險金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ保險契約者カ對價トシテ政府ニ保險料ヲ支拂フヘキコトヲ約スルモノトス

簡易生命保險ノ種類、被保險者ノ年齢、保險料及被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ノ計算ノ基礎ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 簡易生命保險ノ保險金額ハ三百圓以下トス

同一ノ被保險者ニ付數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ保險金額ノ總額ハ前項ノ制限ニ依ル

第五條 簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體検査ヲ行ハス

第六條 保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ之ヲ保險契約者ニ交付ス

第七條 保險契約ノ效力ハ保險證書作成ノ日ニ始マル

第八條 被保險者カ保險契約ノ效力發生後二年内ニ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金額ノ一部ヲ支拂ハサルコトヲ得

第九條 保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定セサルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第十條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其ノ第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受

第十一條 保險契約者ハ保險金額又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル還付金額ノ支拂ノ事由發生スル迄ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スルコトヲ得但シ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第

十二條 保險金額又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル還付金額ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ命令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 前條ノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十四條 保險契約者ハ被保險者ノ同意ヲ得テ第三者ヲシテ保險契約ニ因ル權利義務ヲ承繼セ

第十五條 保險契約者又ハ被保險者ノ詐欺ニ因ル保險契約ハ之ヲ無効トス

第十六條 保險契約者ハ何時ニテモ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ解除ハ將來ニ向テノ其ノ效力ヲ生ス

第十七條 保險契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 保險契約者保險料ヲ拂込マシテ命令ノ定ムル所ニ依リ猶豫スル期間ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ保險契約者カ前項ノ期間經過後一月内ニ其ノ契約ヲ保險料拂濟保險契約ニ變更セムコトヲ請求シタルトキハ之ヲ適用セス

第十九條 前條第一項ノ場合ニ於テハ保險契約者ハ保險契約ノ失効後一年内ニ限り其ノ復活ノ申込ヲ爲スコトヲ得

第二十條 前條ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ニ保險契約復活ノ旨ヲ記載ス

第二十一條 保險契約復活シタルトキハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハザリシモノト看做ス

第二十二條 第十五條及商法第四百二十九條ノ規定ハ保險契約復活ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 被保險者カ保險契約復活ノ效力發生後一年内ニ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金額ノ一部ヲ支拂ハサルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ被保險者カ保險契約ノ效力發生後二年内ニ死亡シタルトキハ第八條ノ規定ニ依ル

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

一 被保險者カ保險契約又ハ其ノ復活ノ效力發生後二年内ニ自殺シタルトキ

二 被保險者カ決闘其ノ他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ

三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但シ其ノ者カ保險金額

ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ政府ハ其ノ殘額ヲ支拂フ

四 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

五 被保險者ノ死亡シタル場合ニ於テ保險契約者及保險金額ヲ受取ルヘキ者カ命令ノ定ムル

所ニ依リ其ノ通知ヲ發セサルトキ

第二十五條 第十六條第一項、第十七條、第十八條第一項及前條ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ受

取ルヘキ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ノ一部ノ還付ヲ請求スル

コトヲ得

前項ノ規定ハ前條第三號ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二十六條 政府ハ保險契約者ノ請求アルトキハ保險契約ノ解除ニ因リ還付スヘキ金額ノ範圍

内ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス

保險金額ヲ受取ヘキ者カ第三者ナルトキハ前項ノ請求ニハ其ノ者ノ同意アルコトヲ要ス

第二十七條 前條ノ規定ニ依リ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ保險金額ヲ支拂フヘキトキハ貸付金

及其ノ利息ハ保險金額ヨリ之ヲ控除ス

第二十八條 當該官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ保險金額又ハ保險契約者若ハ保險金額ヲ受取ル

ヘキ者ニ還付スヘキ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ支拂ハ之ヲ有效トス

第二十九條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ簡易生命保險ニ關スル事項ニ付政府ニ

對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ簡易生命保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

第三十條 前條ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十一條 簡易生命保險審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 簡易生命保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第三十三條 簡易生命保險ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第三十四條 商法第三百九十九條、第四百一條、第四百六條、第四百十七條、第四百二十八條、

第四百二十八條ノ四、第四百二十九條及第四百三十二條ノ二ノ規定ハ簡易生命保險ニ之ヲ準

用ス三、簡易生命保險ノ事務ニ關スルハ、本委員會ニ委任スルコトヲ定ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條 簡易生命保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ保險料、積立金ヨリ生スル收入、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會

計ヨリ繰入ルル金額及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保險金、還付金、事業取扱費其ノ他ノ

諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於ケル歲入總額ノ歲出總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第四條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提

出スヘシ

第五條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 則第十條 則第十一條

○本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時十三分

第二回 大正五年二月二十二日

出席委員

委員長 伯爵 林 博 太 郎 前 田 喜 利 定

委員 子爵 本 多 忠 鋒 仲 小 路 廉

同 小 松 謙 次 郎 真 田 幸 世

同 男爵 長 松 篤 業 山 之 内 一 次

同 水 野 鍊 太 郎 桑 田 熊 藏

同 荒 井 泰 治 同 鎌 田 勝 太 郎

出席國務大臣

出席政府委員

荒井 泰 治

遞信大臣

箕浦 勝 人

同

水野 龍 太 郎
遞信省參事官

松本 丞 治

同

山 本 錦 之 助
遞信省參事官

馬場 内 鏡 一

同

小 澤 嘉 次 郎
遞信省參政官

木下 謙 次 郎

同

委員 子爵 本 芝 忠
遞信省副參政官

荒川 五 郎

同

委員 子爵 村 野 大 助
遞信省電氣局長

棟居 喜 九 馬

同

委員 子爵 村 野 大 助
遞信書記官

中西 四 郎

同

委員 子爵 村 野 大 助
為替貯金局長

肥後 八 次

同

委員 子爵 村 野 大 助
為替貯金局事務官

日吉 平 吉

○委員開會 午前十時十六分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時五十九分

開會 午後一時九分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後二時十六分

第三回 大正五年二月二十三日

○委員出席委員 林博太郎

○委員 委員長伯爵 林博太郎 副委員長子爵 前田 利 定

委員 子爵 本 芝 忠 鋒 同 仲 小 路 廉

同 小 松 謙 次 郎 同 男爵 眞 田 幸 世

同 同 男爵 長 松 篤 葉 同 同 富 井 政 章

同 同 山之内 一 次 同 同 同 水 野 鍊 太 郎

同 同 桑 田 熊 藏 同 同 同 荒 井 泰 治

出席國務大臣 鎌 田 勝 太 郎

出席國務大臣

遞信大臣

箕浦勝人

出席政府委員

兼田親太郎

法制局參事官

松本丞治

同

桑田兼

法制局參事官

馬場兼鏡

同

山之内

法制局參事官

肥後八次

同

小島

兼為替貯金局長

具吉平吉

同

小島

兼為替貯金局事務官

具吉平吉

開會 午前十時三十四分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

兼田親太郎

前田利定

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

第三回休憩 午後零時三十分

開會 午後二時三十四分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時六分

第四回 大正五年二月二十四日 續前

出席委員

伯爵 林博太郎

副委員長子爵

前田利定

出委員 子爵 本多忠鋒

同

仲小路太廉

兼正回同大正五年二月二十四日 小正松謙次郎

同

山本達雄

同會 子爵 三眞小田幸世

同

長松篤業

同會 子爵 三眞小田幸世

同

水野鍊太郎

○委員長伯爵林博太郎 兼正回同大正五年二月二十四日 小正松謙次郎

同

荒井泰治

○委員長伯爵林博太郎 兼正回同大正五年二月二十四日 小正松謙次郎

同

荒井泰治

同會 子爵 三眞小田幸世

同

荒井泰治

出席國務大臣

遞信大臣

箕浦勝人

出席政府委員

大藏大臣

遞信大臣

武富時敏

出席政府委員

法制局參事官

法制局參事官

箕浦勝人

出席政府委員

法制局參事官

法制局參事官

松本丞治

○委員長伯爵林博太郎 速記ノ中止ヲ命ス

(速記中止) 十四日三十四分

○委員長伯爵林博太郎 速記ノ開始ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後二時二十九分

第六回 大正五年二月二十六日

出席委員

○委員長伯爵林博太郎 副委員長子爵

出委員大子爵 本七多 忠 鋒

第五回 同 大正五年二月二十五日 小松 謙次郎

出委員 男爵 眞田 幸世

同 男爵 富井 政章

同 男爵 水野 鍊太郎

同 荒井 泰治

前田 利定

仲小路 廉

山本 達雄

長松 篤業

山之内 龍一

桑田 熊藏

鎌田 勝太郎

出席國務大臣 林博太郎 高橋 榮三 三浦 勝人

出席政府委員 齋藤 公毅 齋藤 川案 齋藤

法制局長官 高橋 制作 衛

法制局參事官 松本 丞治

法制局參事官 馬場 鏌一

遞信省副參政官 荒川 五郎

為替貯金局長 肥後 八次

為替貯金局事務官 日吉 平吉

開會 午前十時五十五分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

休憩 午後零時八分二分

開會 午後一時二十三分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ズ

○委員 散會 午後三時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

簡易生命保險法案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十六日

日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉	日吉 平吉
川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源	川口 正源
林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎	林 博太郎
伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎
伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎	伯爵 林博太郎

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第十七號二百六頁參照

簡易生命保險特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十六日

右特別委員長

伯爵 林博太郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 林博太郎

副委員長 子爵 前田利定印

開會 午後一時三十分

○委員長 田代 開會ノ旨ヲ宣シ

○委員 佐藤 林 田代 開會ノ旨ヲ宣シ

附記 午後三時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告及ノ如ク

簡易生命保險法案

右列諸ノ重要修正ニ就テ及報告候也

大正五年二月二十八日

簡委員長 田代 開會ノ旨ヲ宣シ
委員長 佐藤 林 田代 開會ノ旨ヲ宣シ

簡委員長 田代 開會ノ旨ヲ宣シ

(附記) 別冊路之貴族院議事速記録第十七號二百六頁參照 前 林 田代

簡易生命保險特別會計法案

右可大正五年二月二十六日決メテ及報告候也

本特別委員長

重要物產同業組合法中改正法律案(政第三十四號)特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ重要物產同業組合法中改正法律案(政第三十四號)特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵 一柳 末徳

前田 正名

男爵 平野 長祥

藤田 四郎

岡田 良平

石渡 敏一

松尾 廣吉

伊藤 由太郎

鈴木 周三郎

大正五年委員長及副委員長選舉

重要物產同業組合法中改正法律案(政第三十四號)特別委員會

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	前田正名
副委員長	岡田山良平

會議

第一回 大正五年二月十九日

出席委員

委員長	前田正名	副委員長	岡田良平
委員	子爵 一柳末德	同	男爵 平野長祥
同	藤田四郎	同	鈴木周至郎

出席國務大臣	農商務大臣	河野廣中
委員	子爵 一柳末德	同
同	藤田四郎	同

農商務大臣	河野廣中
委員	子爵 一柳末德
同	藤田四郎

○大正出席政府委員日籍委員ヲ以テ重要物産同業聯合會中五名ヲ推選ス(政第三十四號)特別委員會

農商務省商工局長	岡實
----------	----

重要物産開會時午前十時十五分(政第三十四號)特別委員會

○委員長前田正名開會ヲ宣告ス聯合會ノ議案ヲ討論ス

(參照) 前田正名開會時手帳ノ記載ニ據リ八百八十八號ノ議案ハ前田正名ノ提議ニシテ聯合會ノ議案ニシテ

重要物産同業組合法中改正法律案(政第三十四號)ノ第一條ノ規定ニ據リ聯合會ノ議案ニシテ

第八條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第十條ノ二 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

第十條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣

ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又

ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

重要物産同業組合法中改正法律案(政第三十四號)特別委員會

第十三條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務

ヲ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徴收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナ

ル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得又ハ検査員ノ罷免又ハ職務ヲ命シ又ハ同業組合聯合會

第十四條中「又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得」ヲ「若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會

ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脱退ヲ命スルコトヲ得」ニ改ム

第十九條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ二 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違

背シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條又三 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務ニ従事スル者正當ノ理由ナ

クシテ當該官吏又ハ吏員ハ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又

ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五圓以上

五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

○委 第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的

ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シ
タル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又

ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

○委 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサ

ルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條ノ三 前條第一項ニ掲クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ

懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○委 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四 第二十條ニ掲クル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二ニ掲クル罪ハ刑法第四

條ノ例ニ從フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前選任セラレタル検査員ニ付テハ本法施行後一月内ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ
 前項ノ期間内ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間滿了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリ
 タルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ検査員ハ解任セラレタルモノト看做ス
 検査員ハ前項解任ノ旨迄従前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得
 前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス
 刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム
 第二十二條削除

(附記) 本委員會議事ノ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長前田正名ニ散會ヲ命ス
 散會 午前十一時三十四分
 第二回大正五年二月二十一日
 出席委員 同業聯合會ハ同業聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ無意ニ關シ前項マ受メ又
 委員長 平野 前田 正名 副委員長 岡田 良平
 委員 金子 柳 末 德 同業聯合會 男爵 平野 委員長 祥田

同 藤田 四郎 同 石渡 敏一
 同 松尾 廣吉 同 伊藤 由太郎
 同 鈴木 周三郎

出席政府委員

農商務省參政官 町田 忠治
 農商務省商工局長 岡 實

出席主務官

農商務書記官 藏 川 永充
 委員 田 五

開會 午前十一時二十四分

○委員長前田正名開會ヲ宣告ス
 ○委員長前田正名 散會ヲ命ス

散會 午後零時二十一分

(附記) 正同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ
 重要物産同業組合法中改正法律案(政第二十四號)

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十一日

右特別委員長

前田正名

○委員長 前田正名

○委員 岡田良平

委員長

前田正名

岡田良平

副委員長

○委員 岡田忠實

委員

岡田忠實

○委員 岡田忠實

委員 岡田忠實

委員 岡田忠實

委員 岡田忠實

明治四十年法律第十一號中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ明治四十年法律第十一號中改正法律案特別委員ヲ選定スル

コト左ノ如シ

伯爵 松平頼壽

子爵 今城定政

男爵 高木兼寛

男爵 大澤謙二

男爵 安藤直雄

木場貞長

橋本辰二郎

由雄元太郎

網藏平輔

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	松平	賴壽
副委員長	男爵	高木	兼寬

會議

第一回 大正五年二月十九日

出席委員

委員長	伯爵	松平	賴壽	副委員長	男爵	高木	兼寬
委員	子爵	今城	定政	同	男爵	木澤	謙三
同	男爵	安藤	直雄	同	男爵	木場	貞長
同		橋本	辰二郎	同	伯爵	網藏	平輔

出席政府委員

○大正五年二月十八日開會、計議、以テ明治四十年法律案、中改正法律案、提出、其ノ旨、内務大臣、高木兼寬、氏、對シテ、宣旨、ヲ發、シ、開會、午前十時二十三分

○委員長伯爵松平賴壽開會ヲ宣告ス特別委員會

(參照)

明治四十年法律第十一號中改正法律案、提出、其ノ旨、内務大臣、高木兼寬、氏、對シテ、宣旨、ヲ發、シ、開會、午前十時二十三分

○委員伯爵松平賴壽 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員中川望 癩患者ヲ救護スル爲全國ヲ五ノ區域ニ分テ道府縣ヲ指定シ之ヲシテ療養所ヲ設置セシメ各其ノ區域内ニ於ケル患者ニシテ保護者大ク浮浪スルモノヲ收容ス而シテ現ニ全國ノ療養所ニ收容セルモノノ總員ハ約千三百餘名ナリ是等ノ患者ハ一タヒ收容セラレハ終生其所ニ生活スルモノニシテ多數集合スルヲ以テ其中ニハ不平ヲ訴フル者モアリ或ハ又性質猛惡ナル者モアリテ密ニ逃走シテ他ノ療養所ニ收容セラレ全國ノ各療養所ヲ轉轉シ其ノ意ニ滿タサル事アレハ主動者トナリテ暴行ヲ敢テシ以テ互ニ相鬪爭シ若ハ職員ヲ脅威シ或ハ巧ニ他ノ療養所ノ患者ト連絡ヲ通シテ種種ノ難題ヲ提起シ療養所長以下ノ職員ヲ苦シマシムルコト一再ナ

ラス然ルニ療養所長ハ之ニ對シテ懲戒又ハ檢束ヲ加フルノ權能ヲ有セサルヲ以テ十分ナル取締ヲ爲スコトヲ得ス嘗テ其ノ甚シキ暴行ニ對シテハ告發シタルコトモアリシモ監獄署内ニ之ヲ容ルヘキ相當ノ設備ナキ爲多クハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡サレタリ斯ク彼等ハ如何ナル暴行ヲ爲スモ之ニ對シ何等ノ制裁ヲ加フルノ道ナキ有様ナレハ彼等モ一層暴威ヲ逞シウスルモノト思ハル是レ療養所長ニ懲戒又ハ檢束ヲ加フルノ權ヲ與フルノ必要アル所以ナリ更ニ感化法ノ規定ヲ案スルニ癩療養所長ト殆同様ノ地位ニ在ル感化院長ニハ檢束ノ權ヲ與フルヲ以テ療養所長ニ懲戒檢束ノ權ヲ付與スルトキハ權衡ヲ保ツテ得テ妥當ナリト信ス

○委員男爵高木兼寬 檢束懲戒ノ意味如何

○政府委員中川望 減食又ハ獨居ヲ命スルカ如キヲ謂フ又或療養所ニ於テハ勞働ノ結果ニ依リ賞與ヲ與フルモノアリ斯カル所ニテハ此ノ賞與ヲ減少スルモ可ナラムト思フ

○委員男爵高木兼寬 感化院長ニ付與シタル懲戒權ハ如何ニ行使セラレルヤ

○政府委員中川望 在院者ニ對スル懲戒及檢束ノ方法ニ付テハ內務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ムルノ制ナリ故ニ所ニ依リ異ルヘキモ外出禁止、減食等ナラムト思フ

○委員男爵高木兼寬 癩療養所設立ノ目的ハ癩病ノ傳播ヲ防キ之カ絶滅ヲ期スルニ在ルヘシ然ラ

ハ彼等患者ノ子孫ヲ蕃殖セシメサルコトハ最必要ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ聞ク所ニ依レテ却テ療養所ニ於テハ夫婦ニアラサル男女間ニ夫婦ノ如キ關係ヲ生シ子孫ヲ擧クル者アリト謂フ當局者ハ之ニ對シ如何ノ見解ヲ有スルカ

○政府委員中川望 療養所ニ於テハ初メ男女ノ居所ヲ別ニシ其ノ間ニ堅固ナル障壁ヲ設ケシモ患者中ニハ之ヲ飛越エテ女子ノ居室ニ侵入スルモノアリ之カ制止ニ付何レノ療養所ニテモ困難ヲ感セサルナシ故ニ當局ニ於テハ假令男女ノ關係成立スルモ妊娠セサル方法ナキカニ付研究シツ

○委員男爵高木兼寬 男女ノ居所ヲ數町隔離セシメテハ如何

○政府委員中川望 實際ノ狀況ヲ述フレハ男女間ノ關係ヲ嚴重ニセサルカ爲辛ウシテ平和ヲ保チ得ルナリ患者ハ他ト交際ヲ絶タレタルカ故ニ若之ヲ嚴重ニ取締ニ於テハ彼等ハ逃走ヲ企テ或ハ普通ノ婦女ヲ侵スニ至ルノ虞アリ故ニ夫婦室ナルモノヲ設ケテ夫婦ハ之ヲ同房ニ居住セシム而シテ多數ノ患者ハ之ヲ希望ス

○委員木場貞長 癩病ハ傳染病ナリヤ又ハ遺傳病ナリヤ

○政府委員中川望 慢性傳染病トシテ之ヲ取扱フモノナリ

○委員橋本辰二郎 療養所設置以來年年癩患者ハ減少スルカ

○政府委員中川望 癩患者ノ數ハ他ノ病氣ニ於ケルト異リ調査甚困難ナリ故ニ其ノ數モ不確實ナリ目下全國五箇所ニ收容シアル人員ハ千三百餘名ナリ而シテ之ヲ毎年徵兵検査ノ際ニ於ケル調査ニ徵スルニ減少シタリト認ムルコト能ハス統計學者ノ說ニ依レハ該患者ノ總數ハ全國ヲ通シテ十萬餘人ナリト

○委員橋本辰二郎 癩病ハ傳染病ナリセハ該患者ハ悉之ヲ健康者ト隔離スルノ必要ナキカ

○政府委員中川望 癩療養所ハ患者ニシテ保護者ナキ窮民ノミヲ收容ス官立ノ外ニ私立ニテハ目黒、静岡及熊本ニ患者ヲ收容スル所アリ静岡ニ在ルモノハ佛國人ノ經營ニ係リ熊本ニ在ルハ英國人ノ施設ナリ又草津温泉場ニ癩村トモ謂フヘキ所アリテ多數ノ患者集リ居ルモ別ニ特ニ醫療ヲ爲スニ非サル狀況ナリ政府ハ成ルヘク多數ヲ收容スルコトヲ希望スト雖官立ノ療養所ニ在リテハ定員アリテ全部ヲ收容スル能ハス

○委員橋本辰二郎 石像又ハ木像ニ患部ヲ擦付クレハ癒ユルトテ之ヲ行フ風習アリ然ルニ其ノ石像又ハ木像ハ他ノ普通ノ病氣ニモ效驗アルモノト信セラレ癩患者カ患部ヲ擦付ケタル後ニ患部ヲ觸ルル者モアルヘシ斯カル迷信ノ爲ニ癩病ヲ傳染スル虞アリ之ヲ防止スル方法ナキヤ

○政府委員中川望 一般衛生思想ノ發達ニ待ツノ外ナシ地方ニ依リテハ警察官署ノ注意ニ基キ石像又ハ木像ニ金網ヲ張レル所モアリ

○委員男爵高木兼寛 教誨師ハ效果アルモノト認ムルヤ

○政府委員中川望 患者ハ教誨師ヲ甚有難ク思フモノノ如シ而シテ神道佛教基督教ノ何レニテモ信仰スルコトヲ得シム

○委員男爵高木兼寛 信仰上ノ設備ハ教誨堂ノミナリヤ又ハ各室ニ施設セルモノアリヤ

○政府委員中川望 各室ニ設ケアリ患者ノ中ニハ祖先ノ位牌ヲ祀ルモノモアリ

○政府委員中川望 茲ニ東京感化院ノ懲戒規定ヲ得タレハ懲戒ノ種類ヲ述フヘシ即休憩ヲ奪フコト、衛生上害ナキ程度ニ於テ減食セシムルコト、獨居端坐セシムルコト、寫字ヲ爲サシムルコト、式場ニ於ケル席次ヲ下スカ如キ特待ヲ廢スルコト是ナリ

○委員男爵高木兼寛 此ノ案文ニ於ケル檢束懲戒トハ感化院法ニ於ケルモノト同シ意義ヲ有スル

○政府委員中川望 然リ

○委員男爵高木兼寛 案文ニ沖繩縣ヲ削ルトアルハ何故ナルカ

明治四十年法律第十一號中改正法律案特別委員會

- 政府委員中川望 沖繩縣ニモ府縣制ヲ施行シタレハナリ實際ニ於テハ同縣ハ既ニ九州ノ諸縣ト同シク第五區域ニ編入シアリシカ改正ノ序ヲ以テ之ヲ削ルニ過キス
- 委員木場貞長 患者ニハ如何ナル仕事ヲ爲サシムルヤ
- 政府委員中川望 農業、大工及疊職等ニ從事セシム
- 委員木場貞長 彼等ノ製作品ハ外部ニ供給セサルヤ
- 政府委員中川望 外部ニ供給スルコトナシ
- 委員男爵高木兼寛 患者ニシテ處刑ヲ受クルモノハ多クハ何罪ニ當ルヤ
- 政府委員中川望 多クハ暴行罪、器物毀棄罪、殺人罪、傷害罪等ナリ
- 委員男爵高木兼寛 傷害罪ニ當ル事件ハ患者相互間ニノミ生スルヤ
- 政府委員中川望 患者相互ノ間ニモ生スルト又醫員ヤ看護者ニ對シテ暴行ヲ行フコトモアリ
- 委員長伯爵松平賴壽 今日ハ是ニテ質問ヲ止メ次會ニ於テ更ニ審議スヘシト告ケ散會ヲ命ス
- 散會 午前十一時三十三分
- 第二回 大正五年二月二十一日
- 出席委員

大委員長	伯爵	松平	賴壽	副委員長	男爵	高木	兼寛
委員	子爵	今城	定政	同	同	大澤	謙二
同	男爵	安藤	直雄	同	同	木場	貞長
同	同	山元	太郎	同	同	同	同

出席政府委員

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

開會 午前十時二十二分

- 委員男爵高木兼寛 本員ハ原案ニ賛成スルモ二ツノ希望アリ即第一、當局者ハ癩患者ニ對シ刑ヲ執行シ得ルヤ速ニ設備セラレタシ第二、速ニ癩病豫防法ヲ制定セラレタシ
- 委員大澤謙二 癩病ノ絶滅ヲ期スル爲調査研究アラムコトヲ希望シ高木男爵ト同シク本案ニ賛成ス
- 委員木場貞長 高木男爵ノ述ヘラレタル希望ハ本委員會ノ希望ト爲スノ意思ヲ有セラルルヤ
- 委員男爵高木兼寛 然ラス單ニ現ニ出席セル政府委員ノ參考ニ供スル迄ナリ

○委員木場貞長 然ラハ本案ニ賛成シ且高木男爵ノ説ニ同意ス

○政府委員中川望 政府ニ於テモ癩豫防ニ付テハ決シテ現況ヲ以テ満足スルモノニ非ス昨年療養所長ヲ集會セシメタルトキ種種之カ協議ヲ遂ケタリ其ノ結果トシテ絶海ノ孤島ニ樂園ヲ設ケテ餘生ヲ送ラシメナハ彼等患者モ幸福ナルヘク又健康者ト隔離スルコトヲ得テ兩兩好都合ナルヘキコト、又實際ニ於テ被收容者以外ニ富豪ノ家族ニシテ該病ニ罹レル者モアレハ是等ニ對スル處置ヲ取ルノ必要アルコトヲ認メ目下調査中ナリ

○委員長伯爵松平賴壽 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵松平賴壽 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前十時三十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

明治四十年法律第十一號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十一日

委員長

高木

兼

木

良

大

兼

右特別委員長

伯爵 松平 賴壽

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 松平 賴壽印

副委員長 男爵 高木 兼 寬印

○委員選舉
 大正五年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ醫師法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	松平	賴壽
子爵	今城	定政
男爵	高木	兼寬
	大澤	謙二
男爵	安藤	直雄
	木場	貞長
	橋本	辰二郎
	由雄	元太郎
	網藏	平輔

○委員選舉
 大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

伯爵	高木	兼寬
子爵	今城	定政
男爵	高木	兼寬
	大澤	謙二
男爵	安藤	直雄
	木場	貞長
	橋本	辰二郎
	由雄	元太郎
	網藏	平輔

醫師法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ醫師法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	松平	賴壽
子爵	今城	定政
男爵	高木	兼寬
	大澤	謙二
男爵	安藤	直雄
	木場	貞長
	橋本	辰二郎
	由雄	元太郎
	網藏	平輔

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正五年二月十八日委員會議事錄
 委員長 伯爵 松平 賴壽
 副委員長 男爵 高木 兼寬

會議

第一回 大正五年二月十九日

出席委員

委員長	伯爵	松平	賴壽	副委員長	男爵	高木	兼寬
委員	子爵	今城	定政	同	同	大澤	謙二
同	男爵	安藤	直雄	同	同	木場	貞長
同		橋本	辰二郎	同	同	網藏	平輔
出席政府委員				內務省衛生局長	伯爵	中平川	時望

○大正五年開會 午前十一時三十四分以
 ○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス
 ○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第八條第一項中「設立スルコトヲ得」ヲ「設立スヘシ」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵松平賴壽 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長	伯爵	松平	賴壽
副委員長	男爵	高木	兼寬
		兼	寬印

會議

第一回 大正五年二月十九日

出席委員

委員長 伯爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員長 伯爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ明治三十九年法律第三十一號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員長 伯爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

委員 子爵

伯爵 柳原義光

子爵 山脇玄

子爵 堀河護麿

子爵 小牧昌業

子爵 柴田家門

子爵 岡喜七郎

子爵 岩倉道俱

子爵 木場貞長

子爵 堀正一

子爵

子爵

子爵

子爵

子爵

子爵

子爵

子爵

子爵

○大正委員長及副委員長選舉

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案特別委員會

○大正五年二月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	柳原	五義	光
副委員長		柴田	家門	

會議

第一回 大正五年二月二十四日

出席委員

委員長	伯爵	柳原	義光	副委員長	柴田	家門
委員		山脇	玄	同	堀河	護麿
同		小牧	昌業	同	岡喜	七郎
同	男爵	岩倉	道俱	同	木場	貞長

又出席委員外議員

出席國務大臣

○大正五年二月二十一日閣議ノ結果閣内閣外閣大臣
 閣内閣大臣 內務大臣 一木喜徳郎

出席政府委員

臺灣總督府民政長官	下村	宏
臺灣總督府財務局長	中川	友次郎

開會 午前十時二十一分

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

(參照)

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案 委員長 伯爵柳原義光

明治三十九年法律第三十一號中左ノ通改正ス 委員長 伯爵柳原義光

附則ヲ左ノ如ク改ム

本法ハ大正十年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

散會 午後零時九分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

○大正三十九年法律第三十一號中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

○委員 大正五年二月二十四日マ命ス

(副委員長) 右特別委員長

○委員 大正五年二月二十四日マ命ス

伯爵 柳原義光

○委員 大正五年二月二十四日マ命ス

委員長 伯爵 柳原義光印

○委員 大正五年二月二十四日マ命ス

副委員長 柴田家門印

(參事)

○委員 大正五年二月二十四日マ命ス

出閣委員 中川式次郎

出閣委員 小坂昌義

出閣委員 大野正

出閣委員 大野正

砂鑛法中改正法律案特別委員會

○委員 大正五年二月二十四日マ命ス

○大正五年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ砂鑛法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出閣委員 子爵 冷泉為勇

出閣委員 子爵 片桐貞央

出閣委員 子爵 大河内正敏

出閣委員 子爵 渡部正八元

出閣委員 子爵 若王子文健

出閣委員 子爵 島津内久賢

出閣委員 子爵 石黒五十二

出閣委員 子爵 中村治兵衛

出閣委員 子爵 鎌田勝太郎

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正五年二月二十四日開會

會議

第一回 大正五年二月二十四日

出席委員

委員長 石黑五十二 副委員長子爵 大河内正敏

委員 子爵 冷泉為勇 同 子爵 片桐千貞 同 子爵 島津五久

同 男爵 若王子文健 同 男爵 島津五久 同 男爵 中村治兵衛

出席政府委員

農商務省鑛山局長 子爵 磯部正春

○大正五年開會 午前十一時二十二分

○委員長石黑五十二 開會ヲ宣告ス

(參照)

砂鑛法中改正法律案

○砂鑛法中左ノ通改正ス

○第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム案ニ賛成ス

本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長石黑五十二 散會ヲ命ス

○委員散會 午前十一時五十五分

第二回 大正五年二月二十五日

出席委員

委員長 石黑五十二 副委員長子爵 大河内正敏

出委員 子爵 冷泉為勇 同 子爵 片桐貞央

同 男爵 若王子文健 同 男爵 島津久賢

同 中村 治兵衛
 出席政府委員 農商務省鑛山局長 子爵 石黑五十二
 農商務省鑛山局長 子爵 石黑五十二
 礦部 內正 春

開會 午後一時二十分

○委員長石黑五十二 開會ヲ宣告ス

○委員長石黑五十二 本案ヲ討議ニ付ス

○委員子爵大河内正敏 本員ハ原案ヲ賛成スルモ此ノ際特ニ政府ニ對シ希望ヲ陳述セムトス砂鑛法ハ法文ノ規定不備ナル爲當業者ニ於テモ困難ヲ感シタルナラム是レ本案ノ衆議院ヨリ提出セララルニ至リタル所以ナルヘシ依テ政府ニ於テハ今後ハ成ルヘク斯カル不用意ノコトナキ様ニ注意セラルヘシ又本案ハ金屬類ニノミ關スルモノナルカ寶石類若ハ工業原料用金屬ヲ含有スル粘土等ニ對シテモ齊シク適當ノ規定ヲ設ケラレムコトヲ望ム

○委員子爵冷泉爲勇 本員ハ本案ニ賛成ス

○委員長石黑五十二 本案ヲ表決ニ付ス

可決 中五五五五五

○委員石黑五十二 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタリ尙各委員ニ於テ異議ナキニ於テハ大河内子爵ノ陳ヘラレタル希望ハ本委員會ノ希望ト爲シテ報告スヘシト告ケ散會ヲ命ス
 散會 午後一時二十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

砂鑛法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十五日

右特別委員長

石黑五十二

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長

石黑五十二印

副委員長 子爵

大河内正敏印

出席政務委員

中村治兵衛

委員長

大澤野内

委員長

下黒正十二

開會 午後一時二十分

委員長石島五郎 貴州瀧川家録

委員長石島五十二 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

委員長大澤野内正 本業ヲ...

農會法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ農會法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

侯爵 松平康莊

伯爵 吉井幸藏

子爵 伏原宣足

子爵 伊集院兼知

男爵 青山元

安樂山兼道

依田仙右衛門

廣瀬滿正

上松泰造

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

○大正五年二月二十五日委員及出席委員並其委員長、伯爵 吉井 幸藏
 副委員長 男爵 青山 山元

會議

第一回 大正五年二月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏	副委員長男爵 青山 山元
委員 依田仙右衛門	同 廣瀬山滿正
同 上松 泰造	同 田代 兼次

出席政府委員

農商務省農務局長 前橋 道太郎	同 田代 兼次
同 田代 兼次	同 田代 兼次

開會 午後一時二十五分

○委員長伯爵吉井幸藏、開會ヲ宣告ス、以テ農會法中改正法律案特別委員會ヲ開會ス、
 (參照) 農會法中改正法律案

農會法中改正法律案

○農會法中左ノ通改正ス、其ノ中本案ノ審査ニ付必要ナル事項ハ大體マシテ其ノ中
 第一條ノ三、農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ會員ノ負擔トシ、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ

組織スル農會ノ負擔トス、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ市町村農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ市町村農會長ノ請求アルトキハ市

町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス、此ノ場合ニ於テ市町村農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四

ヲ市町村ニ交付ス、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ市町村農會長ノ請求アルトキハ市町村農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四

前項徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村、水利組合、其他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○委員男爵青山元、本案ニ對スル政府委員ノ所見ヲ問フ會ニテモ、
 ○政府委員道家齊、農會法ハ明治三十二年ニ制定セラレタルモノニシテ政府ハ農會法及農會令ニ
 漸次改正ヲ加フルノ希望ヲ有ス、抑農會ハ全國ニ洽ネク上ハ帝國農會ヨリ下ハ市町村農會ニ至リ
 其ノ總數約一萬二千ニ達ス、而シテ政府ハ昨年ヨリ各地ニ入テ派シテ農會ノ狀況ヲ調査シ、且或事

項ニ付テハ農會ノ意見ヲ徵シツツアリ而シテ之ニ依リテ得ル所ノ種種ノ材料ヲ集メ以テ農會法ノ全體ニ互リテ改正ヲ施サムコトヲ希望ス本案ノ目的トスル強制徵收ノ規定ノ如キモ改正ヲ加ヘタキ點ノ一ナリ要スルニ政府ハ農會法規中改正ヲ要スル點ニ就キ調査中ナレハ直ニ此ノ強制徵收ノミヲ實行スヘキヤ否ニ付未意見ヲ陳述スルノ機會ニアラスト認ム

○委員伯爵吉井幸藏 農會ノ成績ヲ問フ

○政府委員道家齊 農會ノ既往ノ成績ニ付略説スレハ日露戰爭前政府ハ農會ニ對シテ諭達ヲ發シ綱目十四項ヲ舉ケテ其ノ實行ヲ督勵シタルコトアリ該諭達ハ農商務大臣カ農事ノ改良發達ヲ期スル爲發セラレタルモノニシテ其ノ大要ハ現ニ之ヲ實行シ居レリ試ニ其ノ主要ナルモノヲ舉クレハ農會ハ農業ノ智識ヲ普及セシムルコトニ努力シ仲介又ハ斡旋ヲ爲シ共同ニ肥料ヲ購買シ種子ヲ交換シ産業組合又ハ耕地整理ノ爲ニ働キ或ハ官廳ト農民トノ間ニ立チ或ハ農民各自ノ間ニ在リテ周旋シ其ノ他自ラ農事ノ視察團ヲ組織シテ各地ノ狀況ヲ視察スルカ如キコト等是ナリ斯ノ如クニシテ其ノ事業ノ成績未顯著ナラサルモノモアレトモ又頗優良ノ效果ヲ舉クルモノモアリ以上ハ農會ノ成績ノ大要ナリ

○委員伯爵吉井幸藏 農會ノ經費其ノ他本案ノ審査ニ付必要ナル事項ノ大略ヲ記セル參考書類ヲ

提出セラレタシ

○政府委員道家齊 貴需ニ應スヘシ

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後一時四十分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 伯爵 吉井 幸藏印

副委員長 男爵 青山 元印

不... 農會法中改正法律案特別委員會

○委員候補者 農會ノ地位ノ成績ニ付諮詢スルニハ其職務ノ執行ハ農會ニシテ農會法ニ依リテ之ヲ執行スルニシテ...

○委員候補者 農會ノ地位ノ成績ニ付諮詢スルニハ其職務ノ執行ハ農會ニシテ農會法ニ依リテ之ヲ執行スルニシテ...

○委員候補者 農會ノ地位ノ成績ニ付諮詢スルニハ其職務ノ執行ハ農會ニシテ農會法ニ依リテ之ヲ執行スルニシテ...

罹災救助基金法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ罹災救助基金法中改正法律案特別委員ヲ選定スルロト左

ノ如シ

伯爵	島津忠磨
子爵	松平乘承
子爵	榎本武憲
子爵	八條隆正
男爵	江木千之
	黑田長和
	藤田四郎
	南本友弘
	木本源吉

○委員候補者 農會ノ地位ノ成績ニ付諮詢スルニハ其職務ノ執行ハ農會ニシテ農會法ニ依リテ之ヲ執行スルニシテ...

○委員候補者 農會ノ地位ノ成績ニ付諮詢スルニハ其職務ノ執行ハ農會ニシテ農會法ニ依リテ之ヲ執行スルニシテ...

○大正五年二月二十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	島津忠麿
副委員長	子爵	榎本武憲

會議

第一回 大正五年二月二十五日

出席委員

委員長	伯爵	島津忠麿	副委員長	子爵	榎本武憲
委員	子爵	八條隆正	同	子爵	江木千之
同	同	藤田四郎	同	子爵	南平乘弘
同	同	木本源吉	同	子爵	島津忠麿

出席政府委員

○大正五年二月二十五日開會、大藏省理財局長、農工部、神野勝之助、

開會午後一時十九分

○委員長伯爵島津忠麿 開會ヲ宣告ス

(參照) 正平二日二十三日

罹災救助基金法中改正法律案

罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第十七條第一號及同號但書中「地方債證券」ノ下ニ「農工債券北海道拓殖銀行債券」ヲ加フ

○委員子爵八條隆正 罹災救助基金ヲ設クルニハ最少額ノ規定アリ各府縣ノ罹災救助基金ハ既ニ

○此ノ限度ニ達セリヤ

○政府委員神野勝之助 各府縣共ニ五十萬圓以上ニ達セル故既ニ最少額ヲ超過セリ

○委員子爵八條隆正 然レトモ法律ハ五十萬圓ノ制限ノ外ニ「明治二十年度ヨリ同二十九年迄

○最低年度ハ本文平均計算ニ加ヘス」トノ規定ヲ設ク從テ最少額ニ付テハ此ノ法文ノ制限ヲ受ク

○然ラハ現存ノ金額ハ此ノ制限ニ達セリヤ

○政府委員神野勝之助 唯今即答シ難シ

○委員藤田四郎 本案ハ地方ノ經濟ノ爲ニ適當ナル法律案ナリト信ス然レトモ此ノ案ノ適用ヲシ

テ一層完全ナラシムル爲ニ「農工債券北海道拓殖銀行債券」ノ上ニ更ニ「勸業債券興業債券」ノ八

字ヲ加ヘタシ而シテ興業債券ノ名稱ヲ用ウルノ可否ニ付政府委員ノ意見ヲ述ヘラレタシ

○政府委員神野勝之助 罹災救助基金ヲ愛スルノ趣旨ヨリ謂ヘハ寧原案ヲ可トス又興業債券ナル名稱ハ從來使用セス依テ之ヲ日本興業銀行債券ト改メラレムコトヲ望ム

○委員江木千之 本案ハ會期モ切迫セルコトナレハ之ヲ可決セラレムコトヲ望ムサレト強ヒテ自說ヲ主張セス

○委員長伯爵島津忠磨 質問盡キタルヲ以テ本案ニ付藤田委員ノ發議ニ基キ「農工債券北海道拓殖銀行債券」ノ上ニ「勸業債券日本興業銀行債券」ヲ加フルノ修正案ヲ表決ニ付ス

○委員散會 午後一時三十三分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

罹災救助基金法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正五年二月二十五日

右特別委員長

伯爵 島津 忠磨

貴族院議長公爵德川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第十六號二百四頁參照

委員長 伯爵 島津 忠磨印

副委員長 子爵 榎本 武憲印

○委員長 高橋 三重 伯爵
 ○委員 松平 直之 子爵
 ○委員 牧野 忠篤 子爵
 ○委員 酒井 忠亮 子爵
 ○委員 田 健治郎 男爵
 ○委員 外松 孫太郎 男爵
 ○委員 室 田 義文
 ○委員 木村 誓太郎
 ○委員 武石 橋次
 ○委員 高崎 三重郎

○委員長 高橋 三重 伯爵
 ○委員 松平 直之 子爵
 ○委員 牧野 忠篤 子爵
 ○委員 酒井 忠亮 子爵
 ○委員 田 健治郎 男爵
 ○委員 外松 孫太郎 男爵
 ○委員 室 田 義文
 ○委員 木村 誓太郎
 ○委員 武石 橋次
 ○委員 高崎 三重郎

外國債ノ整理償還ノ爲内國債ヲ發行スルコトニ關スル法律案特別委員會

委員選舉ノ第一回

○大正五年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ外國債ノ整理償還ノ爲内國債ヲ發行スルコトニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

○委員長 高橋 三重 伯爵
 ○委員 松平 直之 子爵
 ○委員 牧野 忠篤 子爵
 ○委員 酒井 忠亮 子爵
 ○委員 田 健治郎 男爵
 ○委員 外松 孫太郎 男爵
 ○委員 室 田 義文
 ○委員 木村 誓太郎
 ○委員 武石 橋次
 ○委員 高崎 三重郎